

第9章 総括

第1節 調査の意義と成果

当センターは、県内の古代・中世寺院の数や規模・様相等を明らかにし、所在位置や時期、内容等を調査・整理することで、埋蔵文化財包蔵地として周知し、開発行為等との調整や保存・活用のための基礎資料を作成することを目的に、2018（平成30）年度から5か年をかけて、岐阜県古代・中世寺院跡総合調査を行った。

県内の寺院遺跡を悉皆的に調査できたことは、文化財保護の観点から大きな意義があったと考える。特に山地に所在する遺跡は、その存在を知られぬまま埋もれている場合もあると思われ、昨今の多発している災害等によって滅失するような事態も懸念される。こうした中で古代・中世寺院の悉皆的な調査を行うことができたのは、文化財の保存・活用のために、文化財の現状を正確に把握し、地域の歴史文化を次世代に継承するという本県の方針を推進する上で重要な意味があった。

調査では、基礎資料調査及び現地確認調査で得た情報をもとに地形観察図を作成した。その結果、近世以降成立の寺院を含めた3,464か寺のうち、1,918か寺の古代・中世寺院を確認し、127か所の地形観察図を作成した。また、寿楽寺廃寺跡（飛騨市）、龍渓寺跡（中津川市）の内容確認調査、横蔵寺旧境内（揖斐川町）の地形測量・遺物分布調査を行った。これらの調査から、寺院分布・寺院立地の特徴や変遷、寺域の空間構造、宗派の広がりや衰退、地域ごとの特徴などを明らかにすることができた。ここでは、県内の古代・中世寺院の様相を概観し、歴史的位置付けについてまとめる。

第2節 県内古代・中世寺院の概観

本節では、県内の寺院数を集計し、時期ごとの成立数、転宗数、移転数、廃絶数、立地の変化、寺院分布の特徴を整理する。なお、成立年代等は、各自治体史等の文献資料、発掘調査・遺跡詳細分布調査資料（発掘調査報告書等）に加えて、各地域・関係社寺に残る口承・伝承等を含めて集計した。

1 寺院数（表18）

3,464か寺を対象として調査した結果、古代成立寺院393か寺、中世成立寺院1,525か寺を確認した。飛鳥時代には、岐阜圏域で寺院の成立が目立ち、奈良時代になると西濃圏域や中濃圏域など広い範囲で寺院の成立が増加する。平安時代になると、西濃圏域での成立増加が顕著となり、東濃圏域においても成立が増えてくる。中世になると全圏域で新しい寺院の成立が増える。特に室町時代には岐阜圏域で、安土桃山時代には中濃圏域で寺院数の増加が目立つ。

2 時期毎の成立時期等の検討（表19）

（1）成立の状況

寺院の成立記録は、7世紀からみられる。その中には縁起や伝承が残るのみの寺院も多くあるが、宮

代廃寺跡（垂井町）、弥勒寺跡（関市）、山田寺跡（各務原市）、杉崎廃寺跡（飛騨市）などは発掘調査の結果から7世紀末までに成立していたことがわかっている。その後、8世紀前半から9世紀前半まで寺院の成立が相次いでいる。この時期には、美濃国分寺（大垣市）、国分尼寺（垂井町）や飛騨国分寺（高山市）、国分尼寺（高山市）が成立している。9世紀後半から12世紀前半までの成立はあまり多くない。12世紀後半からは再び寺院の成立数が増え、15世紀前半まで同程度の成立数が続く。この時期には、土岐氏が美濃国で勢力を拡大し、積極的に寺院の造営を行った。15世紀後半に成立は急激に増え、17世紀後半まで成立数が非常に多い状況が続く。この時期は、蓮如などの布教活動により真宗の寺院が特に急増している。

（2）転宗の状況

寺院の転宗記録は、12世紀後半まで限られた数しか確認することができない。この時期については、宗派に関する記録自体があまり残っていないので、実際はもう少し転宗があったのかもしれない。13世紀前半には転宗数が急増するが、13世紀後半以降は15世紀前半まで減少する。この時期の転宗は天台宗から真宗への転宗が圧倒的に多い。15世紀後半に転宗数は飛躍的に増加するが、蓮如の布教活動が主な要因と考えられる。その後、やや減少するが、概ね17世紀後半までは転宗の多い状態が続く。この時期は、天台宗や真言宗から臨済宗、曹洞宗への転宗も一定数確認できるが、圧倒的に多いのは天台宗から真宗へ転宗する寺院である。

（3）移転・廃絶の状況

寺院の移転の記録¹⁾は、12世紀後半まで限られた数しか確認することができない。13世紀前半から15世紀前半までは一定数の移転数を確認でき、15世紀後半に飛躍的に増加する。その後、17世紀後半まで移転数の多い状態が続く。

廃絶（火）の記録²⁾は、11世紀前半から14世紀前半に多少確認できるが、15世紀前半までその数は少ない。その後、15世紀後半から徐々に増え、16世紀後半に劇的に増加する。17世紀には大幅に減少する。

廃絶（他）の記録³⁾は、15世紀前半まで限られた数しか確認できない。15世紀後半以降は、一定数の移転を確認することができる。

15世紀から16世紀の間に移転や廃絶が多いのは、政治勢力の影響が大きい。この時期は、武家勢力の争い、特に織田氏や武田氏の兵火によって多くの寺院が焼失している。そのため廃絶の数が増えていのるだが、一方でその後に多くの寺院が移転・再興している。また、斎藤氏や織田氏は積極的に岐阜城下へ寺院の移転を行っている（篠田壽夫 2015）。これらが移転数増加の一因と考えられる。

3 立地の状況（表20）

所在地が明らかな寺院について、①平地（段丘）、②山麓、③山腹・山頂（尾根上）の3項目に分けて集計すると、①平地に立地する寺院は全体の約59%、②山麓に立地する寺院は全体の約33%、③山腹・山頂に立地する寺院は全体の約7%で、山麓を含む山地に造営されている寺院は全体の約40%である。

次に時期別の立地状況を概観する。発掘調査の結果や遺物の採集などから7世紀に成立したことがわかっている寺院の多くは平地に建立されている。ただし、岐阜圏域や飛騨圏域では山麓や山腹に建立される事例も見られる。8世紀になると平地に加えて山麓・山腹に建立された寺院が増える。8世紀

後半以降、山麓に建立される寺院は減少するが、山腹には9世紀まで一定数の寺院が建立される。平地の寺院は9世紀にも多く確認できる。その後、寺院の建立自体が少ない11世紀を除くと、13世紀前半までは平地に建立される寺院が多い。13世紀後半から山麓・山腹に建立される寺院が増え、15世紀前半まで平地と同数程度の寺院が建立され続ける。15世紀後半以降も山麓の寺院は増加を続けるが、それ以上に平地の寺院が大きく増える。その傾向は17世紀後半まで続く。なお、地域ごとの立地の特徴や立地の要因については第3節で後述する。

4 古代・中世寺院の分布（図41～43）

岐阜県は、北部及び東部の大部分は山地で、南部に濃尾平野の一部である美濃平野が広がる。東部県境には標高3,000mを超す山々を連ねた「日本アルプス」と呼ばれる飛騨山脈、西部県境には両白山地や伊吹山地等がある。これら山地の間に飛騨高地・美濃高原があり、南部へと高度と起伏を減じながら、海拔0mの水郷地帯に及ぶ（岐阜県 2022）。

このような岐阜県の地勢を踏まえて図41を見ると、濃尾平野や木曽三川（木曽川、長良川、揖斐川）流域、宮川流域などに多く寺院が分布していることがわかる。

次に古代と中世に分けて寺院の分布を検討する。図42⁴⁾の古代寺院分布図をみると、古代寺院が最も多く分布するのは濃尾平野の北部の東山道沿いである。この中心となっているのが8世紀に設置された美濃国府（垂井町）や美濃国分寺、国分尼寺である。岐阜圏域から中濃圏域、東濃圏域にかけての東山道沿いにも一定数の古代寺院が分布する。特に中濃圏域は豪族ムゲツ氏の本拠地であり、7世紀後半には武儀評衡が設置され、早い時期から寺院の成立が見られる。長良川上流にも古代寺院の分布が確認できる。これは長瀧寺（郡上市）を中心に白山信仰の美濃馬場が形成されていたためである。県北部（飛騨圏域）では、宮川沿いの盆地に古代寺院の分布が集中する。この地域では8世紀に飛騨国府や飛騨国分寺、国分尼寺が設置され、飛騨国の政治の中心であった。

中世に入ると、治水技術の向上や水運の発達により、河川沿いの集落や街道が増加していく。図43⁵⁾の中世寺院分布図をみると、中世においても古代と同様の地域で寺院の成立が多いが、古代以上に河川沿いでの寺院の成立が目立つ。古代寺院は木曽三川や宮川の近くに寺院が成立することが多かったが、中世になるとそれらの支流やそれ以外の河川周辺にも寺院の成立が目立つようになる。県南部では山腹や山頂に新しい寺院が成立することは少なく、山腹でも集落に近い寺院が多い。一方、県北部（飛騨圏域）では山腹や山頂にも新しく寺院が成立しており、東濃圏域北部までその傾向が広がっている。圏域ごと特徴を簡単にまとめると、西濃圏域では、美濃国府周辺での寺院成立が続くとともに、濃尾平野の西端、伊勢国から北上して延びる伊勢東街道周辺に多くの寺院が成立している。岐阜圏域では木曽川流域の美濃国と尾張国の国境近くや金華山周辺で多い傾向がある。中濃圏域では、美濃加茂台地や台地周縁部に当たる山麓や独立丘陵の裾部、山間部を流れる河川（長良川、板取川、津保川、武儀川、木曽川、飛騨川など）に沿って多くの寺院が分布する。東濃圏域では、街道沿いに多く成立し、それ以外にも屏風山の山裾や土岐川沿いに多く成立している。飛騨圏域では、宮川や高原川、莊川、飛騨川沿いに街道が発達し、その街道沿いに多くの寺院が成立している。

第3節 県内古代・中世寺院の様相

本節では、本県における寺院の立地や寺域の空間構造を検討し、宗派の盛衰や政治勢力の変化など歴史的な背景について概観する。

1 立地の検討

ここでは、立地についての地域差や立地と建立時期の関係について、各地域の特徴的な寺院の事例を挙げて整理する⁶⁾。

(1) 平地に立地する寺院

7世紀には県内多くの地域で平地での建立が確認できる。代表的な寺院としては山田寺跡や杉崎廃寺跡などが挙げられる。8世紀も県内各地で建立が確認できる。代表的な寺院としては美濃国分寺や飛騨国分寺などが挙げられる。9世紀には岐阜圏域や西濃圏域を中心に多くの建立を確認できるが、発掘調査や遺物から建立が確認できる寺院は少ない。10世紀は西濃圏域を中心に建立が確認できるが、11世紀は全県的に少なくなる。12世紀には岐阜圏域や西濃圏域で建立が増え、13世紀以降は全県的に建立が増加し、15世紀前半まで一定数の建立を確認できる。さらに15世紀後半に急増し、17世紀までその傾向が続く。

平地に立地する寺院は丘陵・山地裾部と寺域が接していない寺院であり、河岸段丘、扇状地、氾濫原に位置する寺院などに分けられる。

河岸段丘上の寺院は県内の各地でみられる。中濃圏域で7～8世紀に成立した古代寺院は木曽川やその支流沿いの河岸段丘上に集中している。可児川右岸の河岸段丘上に位置する伏見廃寺（御嵩町）、願興寺（御嵩町）、木曽川と加茂川に囲まれた河岸段丘上にある元薬師寺跡（美濃加茂市）、加茂川右岸の河岸段丘上に位置する雲埋廃寺跡（坂祝町）、神宮東遺跡（美濃加茂市）などである。岐阜圏域で7世紀に成立した山田寺跡や野口廃寺（各務原市）など古代各務郡の寺院は、現在の木曽川よりやや高い各務原台地上に位置している。東濃圏域では8世紀に成立した正家廃寺跡（恵那市）が低地と山塊の接する部分に形成された東山道を見渡せる河岸段丘上に立地する。

扇状地の寺院は西濃圏域や岐阜圏域、飛騨圏域でみられる。西濃圏域や飛騨圏域では7世紀建立の宮代廃寺跡や高畠遺跡（池田町）があり、8世紀建立の寺院としては、美濃国分寺、国分尼寺などが挙げられる。また飛騨圏域では7世紀建立の杉崎廃寺跡が宮川の右岸に、8世紀建立の飛騨国分寺や国分尼寺が現在の市街地にあり、宮川の左岸に形成された沖積地の微高地上に立地している。

氾濫原の寺院は西濃圏域から岐阜圏域、中濃圏域までの南部で多く確認できる。氾濫原の寺院は中世以降に多く確認できる。ただし氾濫原では水害が多く記録類が消失していたり、移転を繰り返したりしている場合も多く、古い時期の建立が少ないのでどうかはわからない。代表的な寺院としては、明台寺（大垣市）を含む寺院群や木瀬草庵跡（笠松町）などである。

(2) 山麓に立地する寺院

7世紀に建立された山麓の寺院は、厚見寺跡（岐阜市）や三仏寺廃寺跡（高山市）などがあるが、限られた数である。8世紀に建立は増加し、中濃圏域や西濃圏域、飛騨圏域で多く確認できる。代表的な寺院としては、柏尾廃寺跡（養老町）や三枝城跡（高山市）、日焼遺跡（高山市）などがある。その後減少し、12世紀前半まで少ない。岐阜圏域や西濃圏域を中心に12世紀後半に増加し、13世紀前半は減少するが、13世紀後半から15世紀前半までは全県的に一定数が成立する。沿革によると崇禪寺（土岐市）、蓮光寺（白川村）、威徳寺旧境内（垂井町）などがこの時期に建立された寺院である。15世紀

後半からは大幅に増加し、その傾向は16世紀末まで続く。

山麓に立地する寺院は、丘陵・山地裾部と寺域が接している寺院であり、丘陵・山地との境付近の地形が谷部や河川沿いの狭小地と見晴らしの良い平地などに分かれる。

谷部や河川沿いの狭小地に立地している寺院は県内の各地で見られる。その中でも前方に河川などがある寺院としては長瀧寺や崇禪寺などがある。谷部の最奥に位置し尾根等に囲まれている寺院には、威徳寺旧境内や瑞龍寺（岐阜市）などがある。

山麓の見晴らしの良い立地の寺院は林陽寺（岐阜市）、香昌寺（富加町）、近松寺（白川町）など県内の各地で確認することができるが、西濃圏域、養老山地の東山麓に位置する柏尾廃寺跡や竜泉寺廃寺跡（養老町）は他の見晴らしがいい山麓の寺院とは少し特徴が違う。前者は集落域の最奥に位置し、集落域よりもやや高い位置に造営されるのがほとんどである。一方で柏尾廃寺跡や竜泉寺廃寺跡は現集落から山麓、山地の中腹近くまで直線道路沿いの傾斜面に平坦面が続く。このタイプの寺院は西濃西部などに限られた数しか確認できない。これまで近江や若狭といった畿内近国では山寺の直線道路が確認されているが、美濃以東では分布数が少なく、その理由は調査量に比例するのではないかとされていた（藤岡 2012b）。しかし、今回の調査でも限られた地域、限られた数しか確認できなかった。

山上に城館を備え、関連施設として麓の山裾に寺院のあるケースも確認できる。広恵寺（中津川市）や三仏寺廃寺跡などがそれにあたる。

（3）山腹・山頂（尾根上）に立地する寺院

7世紀に建立された山腹・山頂の寺院は、光寿庵跡（高山市）などがあるが、限られた数である。8、9世紀には西濃圏域と中濃圏域を中心に一定数を確認できる。沿革によると円興寺旧境内（大垣市）や弓削寺旧境内（池田町）はこの時期の寺院とされる。その後、10世紀後半に中濃圏域の高賀山信仰で少し増えるのを除いて、13世紀前半まで数は少ない。13世紀後半から16世紀前半までは一定数を確認でき、16世紀後半に増える。

山腹・山頂（尾根上）に立地する寺院は、山腹に位置する寺院、山腹から山頂（尾根上）付近の鞍部に位置する寺院、山頂や尾根上に位置する寺院などに分かれる。

山腹に位置する寺院のうち古代（7～12世紀）に成立したとされる寺院は、行基寺（海津市）、弓削寺旧境内、櫻堂薬師（瑞浪市）、禅定寺（現大矢田神社、美濃市）、三枝城跡、日焼遺跡、西ヶ洞廃寺跡（飛騨市）などがある。中世以降（13世紀以降）に成立したとされる代表的な山腹の寺院としては、愚溪寺旧境内（御嵩町）、汾陽寺（関市）、殿坂口遺跡（飛騨市）、来迎寺跡（高山市）、大威徳寺跡（下呂市）などがある。

山腹から山頂（尾根上）付近の鞍部に位置する寺院としては、円興寺旧境内、横蔵寺旧境内（揖斐川町）、日龍峯寺（関市）などである。山頂や尾根上に単独で堂を構える事例は珍しいが、寺屋敷遺跡（揖斐川町）や寺平遺跡（揖斐川町）では尾根上に寺院跡と考えられる礎石建物跡が検出され、普門寺（美濃市）では面平山の山頂に寺院があったとの伝承が残り平坦面が確認できる。また遍照寺跡（寺屋敷遺跡）（高山市）では丘陵山頂に堂跡と尾根先端部に塔が推定されている。

山腹・山頂（尾根上）に立地する古代建立の寺院は多くの事例を確認できた。しかし、行基寺や禅定寺、日龍峯寺など古代の伝承が残るのみで遺構や遺物は確認できていないものが多い。発掘調査の結果⁷⁾から古代建立が確認できているのは、8世紀の三枝城跡、日焼遺跡、9～10世紀の西ヶ洞遺跡、

10世紀の寺屋敷遺跡、寺平遺跡などであり、現状では8、9世紀の山腹に立地する寺院が確認されているのは飛騨圏域である。ただし、遺物が採集されている遺跡は他にもある。例えば、今回の横蔵寺旧境内分布調査⁸⁾では、本堂付近から9世紀後半のものと考えられる灰釉陶器の碗が見つかっている。今後の調査によって様相は変わるかもしれない。

(4) 山麓から山腹・山頂（尾根上）に位置する寺院

山麓から山腹まで平坦面が連続して展開している寺院としては、野上廃寺跡（関ヶ原町）や栗原九十九坊跡（垂井町・養老町・大垣市）などがある。しかし、西濃圏域以外の地域では、あまりこのような立地は見られない。

2 寺域の空間的構造の検討

本調査では、127か所において地形観察図を作成し、山林内における平坦面の広がり方について記録を作成した。ここでは、本県における古代成立の平地寺院、古代・中世成立の山寺の空間構造について、若干の考察を行いたい。

(1) 平地に所在する寺院

飛鳥～奈良時代成立の寺院の特徴として、中心軸を意識した左右対称の構造を成し、「平地伽藍で、飛鳥式・法隆寺式・法起寺式・薬師寺式・東大寺式など、定型化した伽藍配置をとる」（上原 2002）ことは、広く知られているとおりである。本県における古代成立の平地寺院において、発掘調査により伽藍配置が明らかになっているのは、美濃国分寺（大官大寺式）、弥勒寺跡（法起寺式）、正家廃寺跡（法隆寺式）、杉崎廃寺跡（法起寺式）がある⁹⁾。これらの寺院は主に平地（正家廃寺跡は台地上）に立地するが、その選地は造営主体者の政治的な拠点や交通の要所であることに加えて、当時の寺院が金堂や塔などの仏堂の背後に講堂や僧房といった建物を配置し、それらを回廊で囲繞した1つの空間として成立させることができるだけの一定の空間を確保できる場所であることが、大きく関与しているだろう。

伽藍中枢部の外側にも遺構の広がりを確認できる事例として、弥勒寺跡、杉崎廃寺跡がある。弥勒寺跡は、北濃一帯を基盤とした国造・郡領級地方豪族であるムゲツ氏によって、その本拠地のほぼ中央に創建された。伽藍の背後は池尻山、前方は濃尾平野にさしかかるところで山王山に当たって西へ鋭角に進路を変えた長良川に挟まれる矮小地に立地する。南門から見て、右手に塔、左手に金堂を配置する法起寺式の伽藍配置である。弥勒寺跡の東側には、奈良時代初頭～平安時代中頃までの武義郡衙跡（弥勒寺東遺跡）が、西側には寺院の経営に従事する者たちの居住施設若しくは僧房跡（弥勒寺西遺跡）が展開し、閉鎖的な立地環境の中でムゲツ氏に関与する施設が集約された活動拠点を形成している。杉崎廃寺は、古川盆地の北西端に立地する。遺構の遺存状況が非常によく、小規模ながらも主要伽藍の型式を全て備えた本格的な寺院であり、中軸線を揃える中門、金堂、講堂が掘立柱柵列で囲まれた中心区画の西寄りに置かれ、金堂東側に近接して並置される塔の間が区画の中心となる（八賀 2001）。伽藍中枢部の背後に当たる北側には、掘立柱柵列の外側に多数の掘立柱建物が検出された。これらの掘立柱建物は3時期の変遷が確認されおり、各期とも中心となる建物は講堂裏の建物で僧房と推定され、その周囲の建物については詳細不明だが倉のような収納施設があったと推定されている（古川町教育委員会 1998）。

(2) 山地に所在する寺院

山地に所在する古代寺院の空間構造を分析した久保智康氏によると、「ほとんど例外なく、寺地の最奥に仏地的性格の強い堂舎が営まれている」という明瞭な傾向性を見出すことができ、僧地的性格の施設はその脇や谷寄り、そして下方の中小平坦面へと、手前前方に展開していくのが大方の特色であると指摘する(久保2001)。今回地形観察図を作成した寺院のほとんどが、平坦面群の最奥高所に本堂跡、あるいは最も広い平坦面が位置し、その手前あるいは周囲に中小規模の平坦面が展開する事例であり、久保氏が指摘する傾向は本県の山地に所在する寺院においても概ね見出せるといえる。また、藤岡英礼氏は、その内部構造のあり方から宗教勢力のあり方を読み取り、変遷を示している(藤岡2012a・b)。藤岡氏は、山地に所在する寺院で確認できる平坦面をA~E類に分類し(第1章第3節参照)、その組み合わせで寺域が構成されたとした。また、山寺の直線参道は、早いものでは光明寺(京都府)の13世紀の事例を確認できるが、畿内近国においては15世紀以降に普及することを明らかにしている。

ここでは、今回地形観察図を作成した寺院のうち、本堂及び塔跡等の主要堂宇の位置が判明しており、主要堂宇の前方や周囲に坊院跡と推定できる平坦面群の広がりを確認できる寺院を中心に、その空間構造について検討を行う。上記に該当する寺院には、横蔵寺旧境内、円興寺旧境内、柏尾廃寺跡、栗原九十九坊跡、弓削寺旧境内、大威徳寺跡、愚溪寺旧境内、清峯寺旧境内等(高山市)などがあり、特に西濃圏域において遺存状況の良い遺跡を多く確認した。また、特に古い遺物が確認されている光寿庵跡についてもとり上げた。本節における堂宇とその跡地の呼称は、先行報告や研究に従った。なお、各寺院の地形観察図については、各分冊の掲載頁を参照されたい。

岐阜県において、成立が奈良時代に遡ることが遺物により確認できる寺院として、光寿庵跡が挙げられる。光寿庵跡は、標高約642mの山腹に位置する。谷地形の最奥に基壇跡と池跡、石積みが残る安定した平坦面(第5分冊図6 平坦面①)があり、主要堂宇のあった場所と考えられる。この平坦面の背後には、湧水点のある小規模な平坦面がある。また、この主要堂宇跡の約80m南の尾根筋状には、石組を伴う基壇上に石塔が建ち、姉小路氏墓所とされている。光寿庵跡の成立時期は不明だが、昭和時代に7世紀後葉の須恵器と戯画瓦を含む古代瓦が発見されたことから、古代寺院跡と考えられている。室町時代以降は広瀬氏の菩提寺となって同氏により整備され、中世末期には廃絶したと考えられている。このことから、現在地表面で観察できるのは室町時代段階の寺域の様子であると考えられるが、谷地形最奥の平坦面と同等の広さのある平坦面が他に存在しないことから、寺院存続中に主要堂宇の位置は移動していないと思われる。本県で確認できる奈良時代成立の可能性がある事例においても、谷地形の最奥、寺域の最高所に本堂を構えていたことがわかる。なお、光寿庵跡から約800m西の山際の集落に位置する石橋廃寺跡(高山市)からは、光寿庵跡で採取された軒丸瓦と同范の瓦が出土しており、上寺・下寺の関係にあるという考えもある。

古代成立の山地に所在する寺院のうち、特に遺構の残存状況が良好なのが円興寺旧境内と横蔵寺旧境内である。円興寺は、延暦9(790)年、当地の豪族池田氏が山頂に建てた仏堂に、東国教化中の最澄が聖観音像を彫刻して納め伽藍を建立したという寺伝があり、平安時代作とされる国宝の木造聖観音立像を所蔵する。その旧境内¹⁰⁾は、池田山から南側の濃尾平野に向かって張り出す丘陵の山腹に位置し、西側に向かって開く山間部の谷地形の奥に主要遺構群とされる平坦面群が展開する。主要遺構群から約150m南東の尾根上に山門跡があり、礎石が残る。山門跡から参道を登ると、谷を1つ超えて

さらに少し登った場所に主要遺構群とされる寺域の中心域が広がる。この場所に金堂、参道を挟んで南側の高所に塔跡があり、塔跡からの眺望は極めて良好である。金堂跡・塔跡共に礎石列を確認できるが¹¹⁾、堂の向きは不明である。金堂・塔跡の西側にはそれぞれ平坦面があり、講堂跡・僧房跡と推定されている。金堂の東側の1段高い場所は鐘堂跡と想定されており、その背後の斜面地には五輪塔等の部材が散見され、墓域と想定されている。寺域の中心部に至る参道には、山門を通る表参道、金堂跡手前の谷部を上がる裏参道のほかに、西側から上がる参道も確認した。山門を通る表参道から寺域中心部に上がった場合、金堂跡の正面に他の遺構がなく、金堂と塔が直線的に並置する位置関係にあること、金堂の背後に講堂や僧房が位置していることから、平地寺院の伽藍配置を意識した構成といえるかもしれない。一方、西側から上がる参道が寺域の正面に至る道であったとすると、仏堂の中心域である本堂が境内の最奥に位置するような配置と解釈することができ、先述した久保氏の指摘に符合する。平成元年度に大垣市教育委員会によって行われた詳細分布調査が行われた（大垣市教育委員会 1993）。この分布調査では、墓域から蔵骨器の可能性がある灰釉の四耳壺片と経筒の可能性があるとする箇所の灰白色の土器片を採取したほか、僧房跡とされる平坦面の周辺から13世紀中頃に比定される山茶碗や天目茶碗、無施釉の黄褐色陶器を採集された。

横蔵寺は、延暦22（803）年、最澄が山の持ち主であった藤原助基とともに丸山山頂付近に草堂を建てたことに始まるといい、貞元21（802）年銘の金銅造薬師如来像をはじめ、平安時代作の諸仏像等、国・県指定文化財を多く保管している。旧境内は、現境内から約800m北東の、標高約450mに位置する山腹鞍部の谷地形に展開する。谷地形の最奥に南西向きの本堂と池を構え、谷を形成する両側の斜面上に平坦面が展開する。本堂跡から約210m南西の尾根上に仁王門跡があり、谷の北側斜面の地形に沿って本堂へ至る参道が伸びる。本堂跡の南側（本堂から見て左手前方）に塔跡、西側（本堂から見て右手前方）の参道沿いに横幅の長い西講堂、馬場¹²⁾を配置し、塔跡の下方には不定形な小規模平坦面群が階段状に展開する。墓域は本堂からみて北西の丸山と呼ばれる高まりを超えた本堂から隔絶した位置にあり、五輪塔や宝篋印塔等が集積されている。横蔵寺旧境内では、平成30年に遺物分布調査を実施した（第7章第3節参照）。古代の遺物は、本堂跡から灰釉陶器片（黒雀90号窯式期・9世紀後半）を1点採取したのみで、その他は中世の遺物を本堂中心に広い範囲で採取した。中世の遺物には、12世紀末～13世紀前半の山茶碗や13世紀前半の青磁があるほか、現在横蔵寺が所蔵する蔵骨器として使用された古瀬戸の四耳壺や山茶碗の片口鉢も13世紀頃に旧境内へ持ち込まれた可能性がある。円興寺旧境内、横蔵寺旧境内の両寺跡において、表面採集で得られた遺物の多くが12～13世紀代に位置づけられる遺物であり、その多くが山茶碗であった。このことは、三河や駿河の山林所在寺院においても、表面採集で得られる遺物の多くが12～13世紀の山茶碗であると報告されており¹³⁾、近国の山寺においても確認されている事例である。

鳳慈尾山大威徳寺（大威徳寺跡）は、平安時代末～鎌倉時代に寺域が形成されてことが発掘調査で明らかにされている寺院跡である。大威徳寺は、鎌倉時代に文覚上人（一説には永雅上人）が創建した寺院として伝わり、拝殿山の南西に伸びる尾根筋先端の丘陵上に寺域が展開する。遺跡の遺存状態が良く、伝本堂跡や伝山門跡などが地表面で確認されていたが、平成15～18年度に下呂市教育委員会による発掘調査が行われ、寺域の様子がより詳細に明らかにされた（下呂市教育委員会 2007）。円形の丘陵頂のほぼ中心に伝本堂跡とされる礎石列があり、南西側に位置する本堂西建物とは軒廊で繋がってい

たことが明らかになった。本堂跡の東側の尾根斜面上に設けられた平坦面には、礎石や石積みが残る。この場所は、伝三重塔跡・伝鐘楼堂跡とされてきたが、範囲確認調査によって庇をもつ建物跡であることが判明し、拝殿跡・鎮守跡と推定されている¹⁴⁾。この鎮守跡が、大威徳寺の寺域の中で最も高所に位置する。本堂跡の正面に当たる南側から西側にかけては目立った遺構は確認されておらず、広場状の空間があったと考えられている。広場の下方には、坊院跡と考えられる平坦面群が本堂跡を取り囲むように展開する。参道は本堂跡から約120m南の山門跡から直線的に伸びるほか、本堂跡を中心に放射線状に通路が伸びている。坊院跡は、参道及び各通路の両側にみられ、参道及び各通路間を埋めるように地形に即して整然と配置される。範囲確認調査及び発掘調査では、寺域のほぼ全体から鎌倉～室町時代の山茶碗・古瀬戸・大窯製品などが多く採集され、寺域の中央部付近では香炉や仏華瓶といった供膳具類も採集されている。遺物のうち最古のものは、本堂跡北西部で出土した10世紀後半の多口瓶を中心とする一群で、大威徳寺の成立が平安時代にさかのぼるか前身寺院が存在する可能性がある。大威徳寺跡の仏地的性格の強い本堂等の堂舎を寺域の最奥ではなく中心に据え、本堂を取り囲むように寺域が展開するといった在り方は、同じ飛騨圏域の清峯寺旧境内においても同様の寺域の展開を確認できる。

清峯寺旧境内は、平安時代中期の成立という伝承があるが詳細な成立時期は不明である。しかし、正和2(1313)年に清峯寺長光院で写経したという大般若経の存在から、鎌倉時代には寺院として栄えていたことがうかがえる。本堂跡と考えられる最も広い平坦面は尾根の西側斜面に位置し、その東部に基壇状の高まりがある。直線参道は持たず、本堂跡平坦面の下方にD類に分類される小平坦面が階段状に展開する。基壇状の高まりの東側、寺域の中で最高所に位置する場所は白山神社跡がある。白山神社への上り口は南面し、その下方に神社への参道と思われる寺境内を通らない独立した通路を確認した。本堂を取り囲むような坊院跡の展開や、本堂の東側の寺域の最高所に鎮守を置くといった配置は、大威徳寺跡と近似している。このような寺域のあり方は県の中央以西では確認できず、地域性の1つと捉えられる可能性がある¹⁵⁾。

栗原九十九坊跡や弓削寺旧境内は、参道とその周辺の平坦面群の様相を観察することにより、寺域拡大の変遷を観取できる事例である。栗原九十九坊跡は、奈良時代に養老山脈の東麓に沿って造られた法相宗の寺院群の多芸七坊の一つである別所寺と考えられている。詳細な成立時期は不明だが、鎌倉時代初期には「久保寺双寺」と呼ばれ、100以上の僧房を有して栄えたと伝わる。寺域は、栗原山の山腹から山麓まで広域にわたり展開し、山腹と山麓で、参道と平坦面の様相が明らかに異なる。山腹には、大垣市との市境となっている尾根筋から一段下がった場所に、広く安定した平坦面を2か所で確認できる。1つは、栗原城跡(長宗我部盛親陣跡)とされ、地元では多宝塔など寺院の中心となる施設がこの付近にあったと伝わる(岐阜県文化財保護センター2020)。この平坦面の下方には、D類に分類されるような小規模平坦面群を確認でき、背後の尾根筋には中世の墓域が展開する。もう1つは、栗原城跡から約130m西に立地する平坦面で、ここでは8世紀の須恵器が採集されている。参道途中の標高約70mに建つ御嶽神社を境に上方の傾斜がきつくなり、御嶽神社から上方は地形に沿った参道が、下方は山麓へ向かって直線参道が伸びる。地形に沿った参道沿いには、参道から直接出入りできる平坦面ではなく、尾根上等の地形に沿った不整形な平坦面が連続するといった、古い山寺の様相を示す。一方、直線参道の両脇には方形区画の平坦面が整然と配置される。方形区画を伴う直線参道が15世紀以

降に普及するといわれることから、山腹に設けた寺域の中心部から、その前方に向かって寺域を拡大していく様子が見てとれる。また、方形区画を伴う直線参道は1筋ではないため、直線参道ごとに異なる勢力による組織（谷組織）が組まれていたかもしれない。

弓削寺旧境内は、本堂の移転の変遷を追うことができ、移転段階ごとに参道のあり方が異なることでも注目される。弓削寺は、弘仁8（817）年に最澄開基により成立したと伝わる寺院で、池田山北端の山腹に立地し、現境内の周囲に旧境内の遺構が残存する。本堂の位置は、現境内を含めて3時期を確認できる。成立当初の本堂位置は、現境内北側の尾根上に立地する。南北に長く広い平坦面上の南隅に方形の基壇状の高まりがあり、背後に湧水点がある。基壇状の高まりの前方右手（南側）には一段高い位置に三角形状の平坦面があり、塔等の建物が建っていたかもしれない。直線参道を伴わず、本堂跡の前方には、尾根の地形に沿って小平坦面が規則的に連続する、中世前半以前にみられるような古い様相を示す。また、踏査時には基壇状の高まりの周辺で平安時代後期の山茶碗片などが散見され、平坦面のあり方と時期が符合する。2時期目の本堂跡は、現境内の背後に当たる西側に位置する。この場所への移転時期は不明であるが、本堂跡と推定される広い平坦面が山腹に設けられ、その前面から直線参道が伸びる。直線参道の両脇には方形区画の平坦面が整然と配置される。この本堂跡の背後は緩斜面となっており、五輪塔等の石塔部材が散見され、墓域の可能性がある。直線参道や本堂に近い位置に墓域があることから、中世後半以降の寺域である可能性がある。3時期目は慶長7（1602）年に移転した現在の境内地であり、本堂が建つ平坦面としては3時期のうちで最も広い。本堂正面から直線参道がのび、参道の両脇には長方形の区画が整然と配置される。これら3時期の本堂跡の平坦面と参道のあり方から、弓削寺の寺域の構造は、A+C2+D→A+C1+D→A+C1と変遷していくことが現地表面の観察から確認できる。C1類の平坦面は、「山寺の権威や公権を坊院が私的に分有し、自己の権威や求心性を高めた結果、15世紀以降「独立僧坊」という方形区画を完成させ」（藤岡2012b）たものとみることができ、寺院内での勢力が山上の中心伽藍部ではなく、山裾に近い坊院群に分散されていく過程で形成されていく。弓削寺旧境内は、本堂が次第に山上から下がった位置に設けられ、時期が下るごとに坊院群の勢力が増していく様子を、同じ場所で確認することができる事例といえる。

15世紀以降に畿内近国に普及するといわれる直線参道を確認できる寺院としては、柏尾廃寺跡や竜泉寺廃寺跡がある。この2か寺は、天平年間（729～49）に成立したと伝わる多芸七坊の1つであり、先述した栗原九十九坊跡もこれに含まれる。山腹の平坦面で確認できる礎石列は金堂跡と想定されており、その北側の基壇跡は塔跡と推定されている。金堂跡の主軸は東西方向であるのに対し、塔跡の主軸はわずかに北西-南東方向に振っていることから、本堂と塔跡の造営には時期差があるかもしれない。また、本堂跡北西側の尾根向こうの養老山地へ登る入口に位置する場所には、巨岩や洞穴、小平坦面を確認でき、養老町教育委員会はこの場所を行場と推定している（養老町教育委員会2007）。参道は、金堂正面からやや北に振り、金堂正面よりも若干南側にそれを位置から、伊勢街道に向かって一直線に東へ伸びる。参道の両脇には、坊院跡と思われる南北に長い方形区画の平坦面が伊勢街道まで多数展開する。上述したC1類の平坦面の性格から、参道とその両脇の平坦面群は、中世段階の中興期に寺域が拡大されたものである可能性がある。この他、竜泉寺廃寺跡は本堂跡の位置は明らかになっていないが、長い直線参道を有し、参道沿いに多数の平坦面が展開する。柏尾廃寺跡、竜泉寺廃寺跡の共通点として、参道沿いの平坦面群の主軸は参道の方向と直行する（参道から平坦面を見ると奥に伸びていく）

ように展開していくことが挙げられ、本調査においてC1と判断した平坦面の多くも、この特徴に該当する。

岐阜県における中世の山林所在寺院の代表的な事例としては愚溪寺旧境内（愚溪寺元屋敷跡）があり、遺構の残存状態も非常に良好である。愚溪寺は、応永35（1428）年頃成立したと考えられ、旧境内は現境内から約1km北西の山腹の谷部に立地し、美濃守護斎藤利永の裏証判がある寄進地が描かれた絵図（文安6（1449）年頃）が伝えられていることで有名である。現在の愚溪寺の位置へは、寒気が厳しく不便との理由で天保11（1840）年から嘉永2（1849）年にかけて移転した。旧境内は、谷部の最奥に寺域の中で最も広い平坦面があり、方丈（本堂）や庫裡、石庭といった寺院の中心施設を設けている。方丈の背後から北側には山上から沢が流れ、水の流れを制御するための土壠が残る。この平坦面の前面には高さ4～5mの高石垣を伴い、後方の山際は切岸となっている。谷地形を形成する両側の尾根上や、方丈背後の斜面地にも平坦面や通路を確認でき、特に両側の尾根上には塔頭があつたことが愚溪寺所蔵の旧寺域図（江戸時代）に描かれている。塔頭等の僧地的な施設が、方丈等が建っていた平坦面を囲む尾根筋状に配置され、方丈よりも標高の高い場所に立地した。

以上、地形観察図を作成した山地に所在する寺院の事例から、古代成立とされる寺院は、地形の最奥若しくは最高所に配置した本堂に至るまでの地形に沿った参道を設定する場合が多く、時期を下るにつれて直線参道を中心に寺域を拡大・再興する様子が傾向として見てとれ、藤岡2012bの指摘する山寺の変遷傾向が岐阜県においても観取できるといえる。また、大威德寺跡や清峯寺旧境内のように平安時代末～鎌倉時代成立の寺院で、本堂を取り囲むように多方向へ寺域が展開する事例を確認した。現在までのところ、飛騨圏域においてのみ確認できる寺域の在り方で、地域的な特徴として評価できる可能性がある。また、特に西濃圏域において、直線参道をもつ中世段階の境内の遺存状態が良い寺院跡を多数確認した。このことは、岐阜県における山地に所在する寺院の分布傾向の特徴とすることができる。

3 宗派の拡大と変遷

発掘調査成果の蓄積により古代寺院の様相が明らかにされつつあるが、本県において仏教がいつもたらされたのかについて示した史料はほとんどなく、古代寺院から出土した遺物の年代から見ても、本県における仏教伝来は、大化の革新以降であるといわれている（岐阜県1971）。ここでは、濃飛両国における宗派ごとの拡大の様子を概観する。

奈良時代末期から平安時代初期にかけて、学派的要素の強い南都六宗がのうち、法相宗が一気に盛行する。濃飛両国において南都六宗の展開の様相はあまり知られるところが少なく、法相宗のみが確認できる。成立当時に法相宗であった寺院は、靈龜元（715）年の行基創建という來振寺（大野町）など西濃圏域で多く確認でき、天台宗の拠点となる郡上市白山中宮長瀧寺も当初法相宗であった。一方、東濃及び飛騨圏域では、法相宗として成立した寺院は確認できない。

鎮護国家を主な目的とした奈良仏教（南都六宗）に対し、平安時代以降隆盛する天台・真言両宗は、地方民衆に対する布教を積極的に推し進めた。天台宗の開祖である最澄は、弘仁6（815）年（弘仁7年ともいう）より東国教化を開始し、美濃から信濃路をたどった。美濃国には、最澄開基と伝わる寺院として、延暦年間成立には円興寺、横藏寺、弘仁年間成立には願興寺、神護寺（神戸町）、密巖院（神戸

町)がある。円興寺の成立時期は延暦9(790)年、横蔵寺の成立は延暦20(801)年であり、これらの時期を最澄と直接結びつけることは困難であるため、「地方豪族によって建立された私寺が、比較的早い時期に天台宗の支配下にはいって行った」(岐阜県1971)ことを意味していると考えられている。また、寺伝や伝承を含むが、最澄開基、最澄により転宗、最澄自彫と伝わる尊像を祀る寺院のほとんどが西濃・岐阜圏域に分布している。また、平安時代後期には、下記に詳述する白山信仰の美濃の拠点である美濃馬場の白山長瀧神社(郡上市)が天台別院の格式を得て、神宮寺である長瀧寺は美濃国における天台宗の一大拠点として盛行し、飛騨国の天台宗寺院についてもその影響下に置いた。

真言宗の開祖である空海については、最澄とほぼ同じ時期に地方巡化を開始したが、畿内及び四国地方の巡化を中心とし、史実上では美濃国に至ったことは確認されていない。しかし、遣された弟子たちの教化による結果、美濃国にも空海開基と伝わる寺院が見られ、延暦年間成立の明星輪寺(大垣市)、弘仁年間成立の円鏡寺(北方町)、延算寺(岐阜市)や法華寺(岐阜市)があり、寺伝や伝承を含むと空海開基の寺院は、特に岐阜圏域に多く、次いで西濃圏域に分布する。

平安時代末期に法然によって開かれた浄土宗は、その弟子たちによつていくつかの流派に分かれた。美濃国において平安末期成立の浄土宗寺院としては、法然自らが脱法し道場を開設したこという伝承がある法然寺(関市)などがあるが、その数はわずかである。美濃国では、証空の西山派の影響を受けたことが知られ、貞応2(1223)年、証空が関東巡錫の途で創建したという善慧寺(八百津町)は、七堂伽藍のほか、塔頭八十坊を有した大寺院であった。また飛騨国にも証空によって成立した大雄寺(高山市)がある。また、文和2・正平8(1353)年に西山派智通によって成立した立政寺(岐阜市)は、当麻曼荼羅を本尊とし、仏教の教理や教義を学ぶ談議所が設置され、浄土宗の根本道場として栄えた。当初は在地領主の寄進等を受けていたが、土岐頼継・頼豊や、土岐家の有力家臣等、当時の有力者の帰依を受け、美濃国を代表する有力寺院となった。近世以降の浄土宗は、徳川家康の菩提所となり、幕府の保護を受けて急速に発展していく。浄土宗は根本道場が置かれた岐阜圏域や西濃圏域には多く分布し、次いで中濃圏域においても一定数の寺院が見られるが、東濃・飛騨圏域では中世以降に成立した数か寺程度にとどまる。

真宗(浄土真宗)が美濃国に布教が開始されるのは、13世紀前半頃である。本願寺を開いた3世覚如の時には、美濃国では覚如が阿弥陀如来の御像を与えたという円勝寺(本巣市)があり、飛騨国では覚如が『執持鈔』を与えたという高原郷の聞名寺(天文20(1551)年から永禄6(1563)年にかけて神岡町から越中八尾に移転)があり、古川町を中心に影響を広めた。さらに、飛騨国では親鸞の弟子とされる嘉念坊善俊による布教が行われた。善俊は、宝治年間(1247~49)¹⁶⁾に白川郷に鳩谷道場を設け、明応3(1494)年頃から照蓮寺と名乗り、聞名寺とともに飛騨国における真宗の拠点寺院となつた。本願寺の教えが本格的に布教されるのは、覚如の時代から間をおいて15世紀後半以降の8世蓮如の時代である。蓮如が美濃国へ至るのは、文安3(1446)年関東へ赴く途中に親鸞の旧跡を訪ね、衰微していた道場等を復興させたことに始まる。この時、河野九門徒が本願寺の門徒に組み入れられ、以降濃尾平野東部における教団発展の拠点となつた。飛騨国においては、照蓮寺が、同じく白川郷を拠点としていた有力武士の内島氏と対立し焼かれてしまうが、蓮如が双方の仲介に入り和睦させ、内島氏は本願寺の門徒となつた。これにより、照蓮寺は末寺を飛躍的に拡大させたという。15世紀後半に転宗する寺院のほとんどが真宗への転宗であり、濃飛両国ともに蓮如の影響が大きかつたことが伺える。

ただし、東濃圏域においては真宗寺院の数が少ない。

鎌倉時代中期に一遍によって開かれる時宗は、『一遍聖絵』に一遍が美濃・尾張を通過する様子が描かれ、美濃には早い段階から浸透していたようである（岐阜県 2001）。一遍の弟子真教は、各地に時宗教団を作り上げた人物であるが、各地の弟子にあてた消息の中に、関（関市）の与阿弥陀仏にあてたものがあり、鎌倉時代後期には関に時宗寺院が成立していたと考えられている。また、永正 15（1515）年には、時宗の有力一派である遊行派本山の清淨寺（現神奈川県藤沢市）が関の二ツ岩（関市小瀬、詳細な位置不明）に3年間移されていたといい、関は時宗の影響を色濃く受けた地域であった。遊行派寺院の分布は、往古過去帳に示された関、垂井、岐阜市城田寺にみられるとおり関市以西で確認でき、専称寺（岐阜市）、金蓮寺（垂井町）、西光寺（養老町）などがある。また、室町時代には飛騨国に聞名寺（飛騨市古川町）、青林寺（飛騨市神岡町）という時宗寺院があつたというが（岐阜県 2001）、今回の調査ではその所在地等の詳細を明らかにすることはできなかった。

禅宗は、14世紀中ごろ、臨済宗に帰依した美濃国守護土岐氏が帰依したことで興隆し、初代守護の頼貞以降、頼遠、頼康の三代で、美濃国各地に臨済宗寺院が創建される。頼貞開基の寺院としては天徳寺（瑞浪市、詳細位置不明）や龍門寺（七宗町）がある。中世では、土岐氏の拠点地である東濃圏域を中心に、中濃圏域にわたって特に多く見られるほか、岐阜・西濃圏域においても土岐氏に関係する臨済宗寺院が見られる。また、飛騨圏域においても、鎌倉時代から室町時代にかけて国司の姉小路氏をはじめ、守護の京極氏や守護家臣の三木氏などの多くの有力者の菩提寺として臨済宗寺院が創建された。この他、西濃圏域では室町幕府の発願によって建立された安国寺（池田町）があり、臨済宗が時の武家政権との結びつきが強かったことは、本県においてもその様相が見られる。土岐氏衰退以降も、妙心寺派に帰依した守護代の斎藤利永によって臨済宗は広がりを見せ、近世以降岐阜圏域においてもその数が増加する。一方、曹洞宗は臨済宗に比べて半世紀ほど遅れて美濃国に入り、室町時代中期以降から近世にかけて広がりをみせるものの、その数は少ない。初期の曹洞宗寺院として、延文 5・正平 15（1360）年に長江重景が創建した妙応寺（関ヶ原町）や、応永 14（1407）年成立の龍泰寺（関市）がある。龍泰寺は、末寺が県外にも及ぶ大規模寺院で、文明 6（1474）年には9代將軍足利義尚により荘園の寄進を受けるなどし、美濃における曹洞宗展開の拠点となつた。

その他の宗派としては、鎌倉時代中期に開かれた日蓮宗について、初期に成立したものとしては嘉元元（1303）年成立の正興寺（岐阜市）や、正中年間（1324～26）成立の妙法寺（大垣市）があるが、数は少ない。また、中世段階に成立した日蓮宗寺院は、岐阜・西濃・中濃圏域で数か寺程度ずつ、飛騨圏域では永禄元（1558）年成立の法華寺（高山市）を確認できるのみで、他の宗派に比べて寺院数が少ない。美濃国においては中世末に甚だしく衰微するが、近世以降、日重・日乾・日遠の中興の三師によつて宗勢を復興していく。

律宗について、「西大寺諸国末寺帳」（明徳年間（1390～94））に山田松藏寺、大井長康寺、小松寺、牛藪報恩寺の4か寺の名が挙げられている（松尾 1995）。これらの寺院のうち、その所在地が明らかとなつているのは長康寺で、所在地として記される「大井」は現在の恵那市大井町を指す。大井町に所在する長国寺は現在曹洞宗であるが、その前身とされる長康寺（長興寺）は聖徳太子作の妊觀音を安置する寺として7世紀に成立したと伝わる。「西大寺諸国末寺帳」のほか、「西大寺末坊々寄宿末寺帳」（延享 8（1436）年）に記される「美濃大井 長康寺」と同一の寺院であると考えられており、平安時代末

期から続く寺院が、鎌倉時代に律宗に転宗したものである可能性がある。長国寺の境内には、律宗系五輪塔が安置されているほか、同市東野の染戸五輪塔や土岐市曾木町のお君ヶ塔も律宗系五輪塔であることから、東山道渡河点の阿木川右岸の広い範囲に律宗とそれに関する施設が展開していたと考えられている（三宅 2011）。この他、天正元（1573）年に成立した照慶寺（関市）は、現在は真宗であるが、成立当初は律宗であったという。

4 白山信仰について

古来より山は神聖なものとして信仰の対象とされてきたが、平安時代以降、神仏習合と結びついた山岳信仰が盛行した。当県における山岳信仰の主なものとしては、加賀・越前・美濃の3国にまたがってそびえる白山を神体とする白山信仰が挙げられる。白山を開基した泰澄による伝承は様々あり、史実として明確なものは見当たらない（岐阜県 2011）が、「泰澄和尚伝記」（最古の書写年紀は正中2（1325）年）や「元享釈書」（鎌倉時代末期）によると、泰澄は越前麻生津（福井県福井市）の生まれで、常に白山を臨み、かの雪獄には必ず神靈があると確信し、養老元（717）年に弟子の臥、清定行者とともに白山の登頂を果たしたという。この登頂の途次に長滝（郡上市）に至り、老杉の中に彦火々出見尊の一社がある境内に3本の金幣を見て、この地が神明祐遊上の地という御神託を得て、白山中宮長瀧寺を造営したと伝わる。『高鷲村史』に記載される長瀧白山神社社伝によると、長瀧寺は養老2（718）年、長瀧白山神社はその翌年に創建されたという。平安時代末期には全盛期を迎えた、その当時は「六谷六院、神社仏閣三十宇、宗徒三百六十坊」があったと伝わる。郡上市白鳥町中津屋の白山神社には、「六谷六院ノ一十禅寺」の石碑が建つ。かつてこの地に東永山十禅寺という泰澄により創建された寺院があったというが、十禅寺は長瀧寺から南東約8kmの場所にあり、寺域はかなり広大な範囲に及んでいたと思われる。

鎌倉時代以降は、白山の中心祭を行う庭登拝の拠点として加賀・越前・美濃の各所に馬場が設けられた。白山への登山口に位置する長瀧寺は、美濃馬場として中世以降さらに盛行を極める。白山中宮長瀧寺から白山山頂へは、前谷、阿弥陀ヶ滝を通り、郡上市石徹白に位置する白山中居神社を経て、神鳩峰、三ノ峰、別山、白山山頂（御前峰）に至る。この信仰の道は美濃禪定道と呼ばれ、総延長は約36km、石徹白地区から険しい山道となる。美濃・尾張方面から白山に参るには、長良川沿いを北上し、まずは洲原白山権現（現洲原神社、美濃市）に参詣したという。洲原白山権現は、養老年間に泰澄勧請により、白山前宮として造営されたという宮である。白山前宮を参詣してから、中宮長瀧寺に至るのがいつ頃取り決められたのかについて、その詳細は不明である（岐阜県 1969）が、富山県南砺市上梨の白山宮で発見された「白山本地垂迹曼荼羅」（南砺市指定文化財、室町時代末期）には洲原白山権現の境内が描かれている。この曼荼羅は、画面上部に本地仏と垂迹神、その下に美濃から山頂へ至る景観が描かれたものであるが、最下部には長良川を描き、左下の出発点には美濃市の立花神社、次に洲原白山権現の神岩と思われる巨岩と境内が描かれる。このことからすると、遅くとも室町時代末期には洲原白山権現が白山前宮として定着しており、鎌倉時代末期以降の白山信仰圏の拡大に伴って、長瀧寺へ至るまでの道も信仰の道として認識されたと思われる。この曼荼羅について解説する小阪大 2021によると、かつては洲原神社・立花神社のさらに下流に位置する神光寺（関市）から白山参詣を行っていたという。神光寺は、関市下有知に現存する真言宗寺院で¹⁷⁾、養老3（719）年泰澄によって創建された白山

神社を併設する神仏習合の寺院である。神光寺も室町時代後期～安土桃山時代に描かれた「白山垂迹曼荼羅」を寺宝として有す。長良川が山間部から平野へと付近には、神光寺の他にも泰澄創建と伝わる寺院が散見される。長良川の西側山麓には禅定寺や大聖寺（現武芸八幡神社、関市）が山麓に立地する。また、さらに下流には、薬師寺（現生櫛薬師堂、美濃市）がある。さらに、鎌倉時代には東山道沿いに天台・真言の学問寺であり白山信仰とも関連があるという新長谷寺（関市）が創建された。美濃権現山地南部の山麓及び盆地の一帯は、白山参詣への登山口として、広く盛行したと思われる。この他、泰澄と共に白山登頂を果たした弟子の清定開山の光宗寺（富加町）など、特に中濃圏域において白山信仰初期の影響による寺院が多くみられる。

白山信仰の布教は、平安末期から鎌倉・室町時代にかけて、日本全国を行脚し白山の神徳を広めた「白山莊嚴講」の宗徒（いわゆる白山山伏）や、近世以降白山の先導役であった御師（おし）によって行われた。その広がりを示すものとして、全国の白山神社の分布がある。白山神社の分布は、『神社明細帳』によると、昭和18（1943）年時には北海道から鹿児島県の45道都府県に2,716社の白山神社があり、岐阜県には525社と全国で最も多い（白山本宮神社史編纂委員会2010）。岐阜県内の白山神社が鎮座する場所は、美濃国の北部山手一帯の地域（揖斐・本巣・山県・武儀・郡上）、飛騨国においても各村に1社以上は鎮座するといわれ、その座地のほとんどが白山を望見できる、若しくは座地の裏山に登ると白山が望見できる場所であるという（岐阜県1969）。各地に白山神社が勧請されると、その境内や近隣には神宮寺が建立された。その初期のものとしては、平安時代に白山社と共に祀られたという暁堂寺（関市）や金剛院（坂祝町）など中濃圏域にみられ、鎌倉時代に成立した寺院としては岐阜市城田寺の白山神社の神宮寺である舎衛寺などがある。飛騨国では、養老4（720）年、泰澄が創建したと伝わる白山社の別当寺である妙觀寺（高山市）が建立された。この他、鎌倉時代成立の高尾山神宮寺跡（高山市）があり、白山に近い旧大野郡域において白山信仰に係る神宮寺を一定数確認できる。

5 地域有力者との関係

鎌倉時代、日本にもたらされた禅宗は、坐禅という自力修行の精神や、渡来僧や留学僧がもたらした宋学、漢詩文、水墨画、建築様式、飲茶などの風習が武家社会に大きな影響を与え、特に臨済宗は各地の武家の間に広まっていった。室町時代になると、臨済宗は將軍家の帰依を受け、臨済宗寺院の寺格を制度化する五山制度が確立し、五山派寺院は幕府や守護の保護のもとに発展していった（岐阜県2001）。美濃においては、鎌倉時代初期～中期には、幕府中枢の有力武士が美濃にいなかつたため、臨済宗の影響はほとんど見られない。影響が見られるのは14世紀になり、天台宗を帰依していた土岐氏が、北条得宗家と縁戚関係を結び、初代守護頼貞の時に臨済宗を帰依して以降である。頼貞はまず、円覚寺派の定林寺（土岐市）や光善寺（瑞浪市）を創建した。次いで、2代頼遠は廬山寺（美濃市）、3代頼康は瑞巖寺（揖斐川町）や正法寺（岐阜市）を創建し、土岐氏の本拠地である東濃圏域を中心に、中濃・岐阜・西濃圏域の各地に臨済宗寺院を創建していく。さらに、円覚寺派無学祖元の門下である高峰顕白の下にいた夢窓疎石・元翁本元・此山妙在の3人が正和元（1312）年に美濃に入り、臨済宗円覚寺派が美濃において大きな影響力を持つようになる。特に、夢窓疎石は正和3（1314）年に土岐氏のもとを訪れて永保寺（多治見市）を創建したほか、正傳寺（八百津町）や福寿寺（八百津町）、頼遠開基とともに開山した東香寺（富加町）、普濟寺（瑞浪市）なども開いた。また、足利尊氏・直義兄弟とも関係があ

り、南北朝の戦死者の冥福と国家安泰の祈祷所として、各国ごとに安国寺を建立させた。安国寺は、美濃国では岐阜市及び池田町に、飛騨国では高山市に所在する。土岐氏の衰退以降は、守護代斎藤利永が帰依した妙心寺派が広まっていく。利永が創建した寺院として、愚溪寺や汾陽寺がある。弘治2(1556)年に、長良川の戦いで斎藤道三を倒した斎藤義龍は、土岐氏・斎藤氏が外護していた臨濟宗寺院を統制しようと、本山妙心寺派から別傳を迎える。傳燈護国寺を建立した。傳燈寺は早田(現岐阜市元浜町付近)に成立したというが詳細な位置は不明であり、明徳元(1390)年に土岐満康によって成立した崇福寺(岐阜市)と長良川を挟んで向かい合う位置に建立されたという。美濃国における禅宗寺院の統制権は、応仁元(1467)年に土岐成頼と斎藤妙椿により成立した瑞龍寺が保持していたが、永禄3(1560)年に義龍により傳燈護国寺にその統制権を与えることを布達した。瑞龍寺や瑞龍寺は東海派であったが、別傳が靈雲派であったため激しい反対運動がおこり、大紛争に発展した。しかし、翌年に義龍が急死したため政策は挫折し、傳燈寺はその後焼失した。

岐阜城下に当たる金華地区には、戦国大名の指示によって寺院が移転、寺町が形成された。天文8(1539)年、斎藤道三による稻葉山城の建設を契機に、因幡山全体を城地とするため、山上山下に祀られていた神祠をまとめて現在の洞へ移し、因幡神社を建立したのが現在の伊奈波神社(岐阜市)のはじまりであるという(篠田2015)。因幡神社の社僧として、因幡寺吉祥院があつたが、いつの頃か満願寺に代わった。また社頭には善光寺如来堂があつた。この善光寺は、天正10(1582)年に織田信長が武田氏を滅亡させたときに、信濃の善光寺如来を岐阜に招致して建立したものであると伝わるが、京都公家の山科言継が永禄12(1569)年に2度にわたって岐阜を訪れた際に「善光寺如来」に参詣しており(岐阜市1980)、天正10年以前から有名な存在であったと考えられている。さらに信長は、善光寺の門前に、立政寺の末寺でもともと上加納村(岐阜市)の1か所(八ツ寺町)にまとまっていた浄土宗西山派の8か寺(善澄寺、含政寺、極楽寺、大泉寺、安楽寺、淨土院、誓安寺、西光寺)と、同宗派の誓願寺を一举に移転させている。浄土宗西山派の8か寺のうち、現存するのは善澄寺、含政寺、極楽寺、大泉寺、安楽寺である。この5か寺と誓願寺は、現伊奈波神社の直線参道の両脇に集中して分布する。善澄寺と大泉寺の本尊の阿弥陀如来像は比叡山伽藍にあつたもので、信長により一寺建立のため与えられたという。信長は、元亀2(1571)年に比叡山の焼き討ちを行っており、願誓寺の阿弥陀仏も比叡山法堂のものであることから、篠田氏は、死者の靈を弔わせるために城下のはずれに浄土宗寺院を置いたということに加えて、「善光寺大門は比叡山から救出された仏像の再生・護持の地ではないか」(篠田2015)と考える。合計10か寺が集められたことで善光寺如来を護持する体制が整った後に、善光寺が成立した。この善光寺大門整備は、伝承では信長の事業とされているが、善光寺如来を美濃に持ち去ったのは天正4(1576)年以降の岐阜城主である織田信忠であることが「家忠日記」に記されているといい、実際に整備を実施したのは信忠である可能性がある。信長・信忠による善光寺大門の整備は、「天下の居城とするに相応しい、鎮護の靈域を創出しようとした」(篠田2015)ものである。善光寺大門に集められた10か寺と因幡神社は、一体の境内を構成し岐阜町の中心的靈域として存在感を高めたが、信忠の急死によりその意図は挫折し、その後寺院や神社同士が組織化することはなかった。善光寺如来は、天正10(1582)年6月の本能寺の変で信長・信忠が死去するとすぐに、次男である信雄により、彼の自領である尾張国甚目寺に移された。その後は、方広寺(京都市)、鴨江寺(浜松市)を経て、信濃善光寺に戻ったとされている(特定非営利活動法人わいわいハウス金華・岐阜市歴史博物館)

2009)。善光寺如来が祀られていた靈跡には、織田信長の嫡孫である秀信によって稻葉善光寺堂が建立、善光寺如來の御分身を祀り今に至る。

第4節 今後の課題

5か年にわたる岐阜県古代・中世寺院跡総合調査では、自治体史を用いた基礎資料調査の土台に、現地確認調査、地形観察図作成による測量調査、一部内容確認調査によって、個々の寺院のデータ収集を行ってきた。特に、地形観察図作成では、主に山中に立地する127か所を作成し、寺域がどのように展開していたのかを検討するまでの基礎資料を提示することができた。しかし、限られた期間での調査の為、全ての山林所在の寺院について踏査及び地形観察図を作成できたわけではない。また、史料や自治体史では存在が知られていないが、聴き取りによると地元では寺跡と伝わり、図化できなかつたが実際に平坦面を確認できるような場所もあった。山林は、自然状況や災害及びその対策における開発工事等で、その状況が刻々と変化する環境である。今回の調査を通して、寺院をはじめ山林所在の遺跡について、その範囲と遺跡の現状の把握が急務であることを実感した限りである。

仏教史について体系的に理解するためには、山岳や巨岩などの自然崇拜・信仰遺跡との関連や、寺院史に関する歴史諸史料の把握、神仏習合時の寺社との関係性等の視点等も欠かせないが、今回の調査では十分に取り上げることができなかった。しかし、現地確認調査の結果も反映しながら、岐阜県における古代・中世寺院の成立と消息、そしてその立地について大略を示すことができた。今後、本報告が遺跡の周知や保護、さらなる調査の緒となれば幸いである。

(注)

- 1) 移転の記録は、沿革から移転したことが確認できるものをカウントした。ここには廃絶後に移転して再興している寺院数も含まれる。また、複数回移転している場合は、最初の移転のみカウントしている。
- 2) 廃絶(火)は、沿革から兵火により焼失したことが確認できるものをカウントした。なお、廃絶後に再建されたものもここに含まれている。
- 3) 廃絶(他)は、兵火以外の理由で廃絶した寺院で、廃絶後に再興していない寺院の数を表している。
- 4) 旧東山道等については既存の資料(島方洸一 2012)を参考にした。
- 5) 中世の街道については、記録があまり残っていない。しかし、近世にかけて整備された街道は、中世以前の古道をある程度踏襲していると考えられるので、岐阜県2001に記載されている近世の街道を参考に図化した。
- 6) 立地数の具体的な数値については、本章の表3及び各圏域のまとめで提示した表「時期別の立地数」を参照。
- 7) 詳しくは、本報告書の第3章第3節、第6章第3節を参照。
- 8) 詳しくは、本報告書の第7章第3節を参照。
- 9) この他に、出土した瓦等から7世紀後半創建と考えられている各務原市山田寺跡では、塔心礎の位置が原位置を保っておらず、寺跡周囲は近世以降の宅地化により基壇跡の確認はなされていない。しかし、小川栄一氏による詳細な踏査記録や、平成17~19年度に各務原市教育委員会によって行われた発掘調査の成果から、法起寺式伽藍配置が想定されている(各務原市教育委員会 2010)。

各務原市埋蔵文化財調査センター2010『山田寺跡』各務原市文化財調査報告第50号

- 10) 大垣市教育委員会が平成2年度に行った遺跡詳細分布調査では、灰釉四耳壺や常滑産甕、かわらけ、山茶碗などの中世の遺

物が採集されており、中世後半に活発に活動していることが判明している。

大垣市教育委員会 1993 『岐阜県大垣市遺跡詳細分布調査概要報告(II)』、大垣市文化財調査報告書第 21 集

- 11) 圓興寺旧境内の踏査とその報告を最初に行った藤井治左衛門氏は、「金堂と塔も皆山門に向かつて南面（実際には南東面か）している」と評価した。なお、圓興寺旧境内の主要遺構群における各堂跡の位置の推定は、藤井氏によるものである。

藤井治左衛門 1958 「圓興寺旧趾を探る」『岐阜史学』第 23 号、岐阜史学会

- 12) 現地指導を受けた早川万年氏によると、山麓から仁王門までの参道の状況は、狭く勾配のある斜面を登ることになり、馬が嫌う傾向にあるという。馬を山頂部付近まで置いておくことの意味を見出しづらいという御意見を頂いた。

- 13) 三河及び駿河の山林に所在する寺院では、灰釉陶器類等の古代の遺物が採取される範囲は本堂跡を中心とする一部分に過ぎず、成立当時の寺域は本堂跡を中心とするわずかな範囲であり、13 世紀代に新たな平場や墓域の造営といった寺域の拡大が積極的に行われたことを表していると考えられている。

岩原剛 2011 「三河の山岳寺院（愛知県）」『佛教藝術』315 号、毎日新聞社

松井一明 2011 「遠江・駿河の山林寺院（静岡県）」『佛教藝術』315 号、毎日新聞社

- 14) 下呂市教育委員会 2007 では、大威徳寺跡内で確認される建物跡の名称は、『濃洲長瀧寺阿名院所在経文末書』（天正 15（1587）年）に記載された名称を使用し、発掘調査によりその性格が明らかになったものについては、適宜名称を変更している。

- 15) 大下永氏は、飛騨地域における中世成立の山地に所在する寺院について、その空間構造を比較している。氏は、大威徳寺と清峰寺について、子院群を有すこと、神社信仰の場が仏堂の背後かつ上段に位置すること、墓域が主たる仏堂から向かつて左袖の奥まった地区に位置することなどを共通点として挙げながらも、大威徳寺は計画的な直線通路を基軸に子院群が展開するのに対し、清峰寺は地形に即した山道状の参道を持つと指摘する。飛騨地方において主たる堂へ繋がる直線参道と隣接する子院群の存在が認められるのは大威徳寺と千光寺（高山市）のみであり、千光寺は本山の高野山が権門勢力であったことや、室町幕府及び三木氏との繋がりを持つ寺院であることから、飛騨の山寺において計画的な直線通路を採用するのは中央権力を志向したものである可能性が高いと指摘する。

- 16) 鳩谷道場の建立時期について、『飛州志』では宝徳年間（1449～51）と記すが、善俊が後鳥羽上皇の皇子で建保 2（1214）年に生まれたことや親鸞の弟子であることから、宝治年間（1247～49）の誤りであるという指摘がある。

真宗寺史編集委員会 2022 『朝光山真宗寺史』、朝光山真宗寺

- 17) 神光寺の成立当初の位置は、今宮山山頂にあったとも、富加町川小牧に旧跡があったともいわれる。富加町教育委員会 1991 によると、富加町川小牧に室町時代前期の宝篋印塔があり、そこが神光寺の旧跡であったという。川小牧地区を現地確認したが石塔の所在を確認することができず、旧跡の位置は不明である。また、今宮山山頂については現在東海環状自動車道が通る。現在の今宮山西山麓への移転は慶長元（1596）年の真栄による中興時とされている。

富加町教育委員会 1991 『とみかの石造物』

〈参考文献〉

上原真人 2002 「古代の平地寺院と山林寺院」『佛教藝術』第 265 号、毎日新聞社

大下永 2018 「飛騨における中世山寺の空間構造について」『斐太紀』平成 30 年秋季号、飛騨学の会

岐阜県 1969 『岐阜県史』通史編 中世

岐阜県 1971 『岐阜県史』通史編 古代

岐阜県 1972 『岐阜県史』通史編 近世下

岐阜県 2001 『わかりやすい岐阜県史』

岐阜県 2022 『2022 県勢要覧』

岐阜市 1980 『岐阜市史』通史編原始・古代・中世

岐阜県文化史調査研究会 1999 『飛騨美濃合併 120 周年記念事業 ひだみの文化の系譜』、岐阜県

岐阜県文化財保護センター2020 『栗原九十九坊跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 147 集

久保智康 2001 「古代山林寺院の空間構成」『古代』第 110 号、早稲田大学考古学会

下呂市教育委員会 2007 『岐阜県指定史跡 凰慈尾山大威徳寺跡 平成 15~18 年度範囲確認調査報告書』下呂市文化財調査報告書第 1 集

小阪大 2021 「美濃禪定道 白山本迹曼荼羅」『御鎮座千三百年記念洲原神社』、洲原神社

篠田壽夫 2015 「岐阜市金華地区の寺院配置考」『岐阜史学』第 104 号、岐阜史学会

島方洸一 2012 『地図でみる東日本の古代 律令制下の陸海交通・条里・史跡』、株式会社平凡社

白山本宮神社史編纂委員会 2010 『増訂図説白山信仰』、白山比咩神社

特定非営利活動法人わいわいハウス金華・岐阜市歴史博物館 2009 『ふるさと岐阜・魅力発見大作戦岐阜町金華の誇り』

八賀晋 2001 「「飛騨国伽藍」について」『美濃・飛騨の古墳とその社会』東海の古代①、(株)同成社

藤岡英礼 2012a 「空間構造」『季刊考古学』第 121 号、(株)雄山閣

藤岡英礼 2012b 「山寺の変遷」『季刊考古学』第 121 号、(株)雄山閣

古川町教育委員会 1998 『岐阜県吉城郡古川町 杉崎廃寺跡発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第 5 集

松尾剛次 1995 『勧請と破戒の中世史—中世仏教の実相—』、古川弘文館

三宅唯美 2011 「東濃地方の律宗五輪塔」『瑞浪市歴史資料集』第 1 集、瑞浪市陶磁資料館

養老町教育委員会 2007 「3 採集遺物からみた柏尾廃寺跡の形成過程と施設配置-測量調査の成果から-」

『養老町遺跡詳細分布調査報告書』養老町埋蔵文化財調査報告書第 4 集

表18 県内寺院の成立状況

時代	圈域名	岐阜圈域	西濃圈域	中濃圈域	東濃圈域	飛騨圈域	小計
飛鳥		23	6	8	2	9	48
奈良		30	33	28	3	8	102
平安		46	79	36	12	8	181
古代(細分不能)		12	24	7	8	11	62
古代寺院小計		111	142	79	25	36	393
鎌倉		56	41	35	11	22	165
室町		216	194	141	50	96	697
安土桃山		44	50	69	34	12	209
中世(細分不能)		103	175	81	51	44	454
中世寺院小計		419	460	326	146	174	1525
古代・中世寺院合計		530	602	405	171	210	1918
参考寺院等							
近世(江戸)		172	187	148	124	31	662
時期不明		179	173	152	106	68	678
近代以降等		73	50	35	35	13	206
近世以降等寺院小計		424	410	335	265	112	1546
対象寺院合計		954	1012	740	436	322	3464

注 時代・時期は次のとおりとした。飛鳥(592年～)、奈良(710年～)、平安(794年～)、鎌倉(1185年～)、室町(1333年～)、安土桃山(1573年～)、江戸(1603年～)。なお、飛鳥時代から平安時代を古代、鎌倉時代から安土桃山時代を中世とし、明治時代以降は寺院以外のものを含めて近代以降等とした。

表19 時期別の成立数等

西暦内容	西暦内容											
	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	
成立	36	82	25	62	11	16	24	5	5	10	51	45
転宗			3	1	1			1	37	14	16	11
移転		2	2		1			1	1	2	3	8
廢絶(火)				2	1			2	4	1	2	7
廢絶(他)				1				1		1	1	

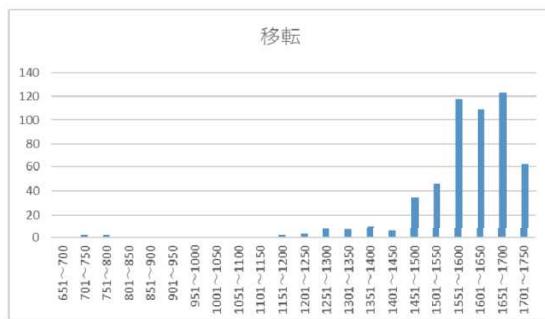
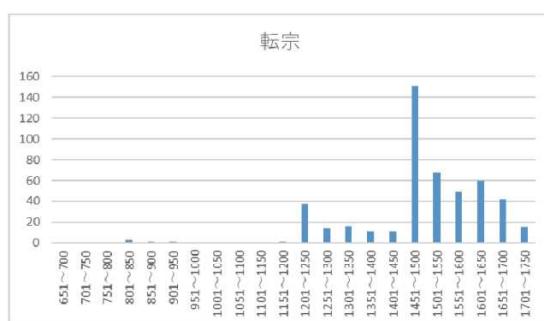
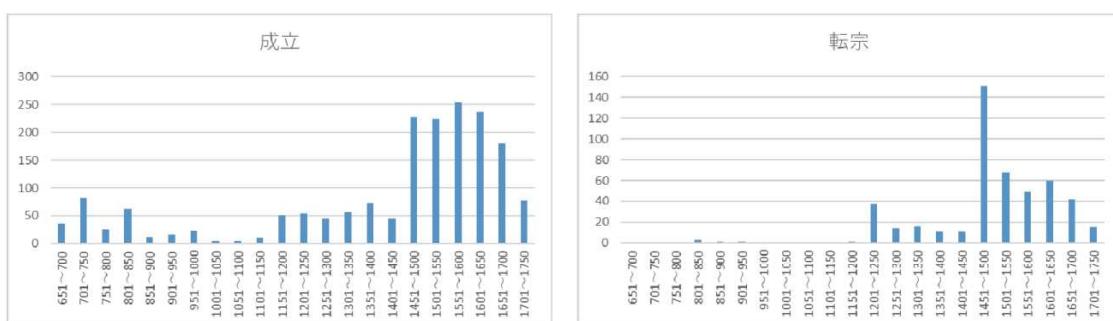
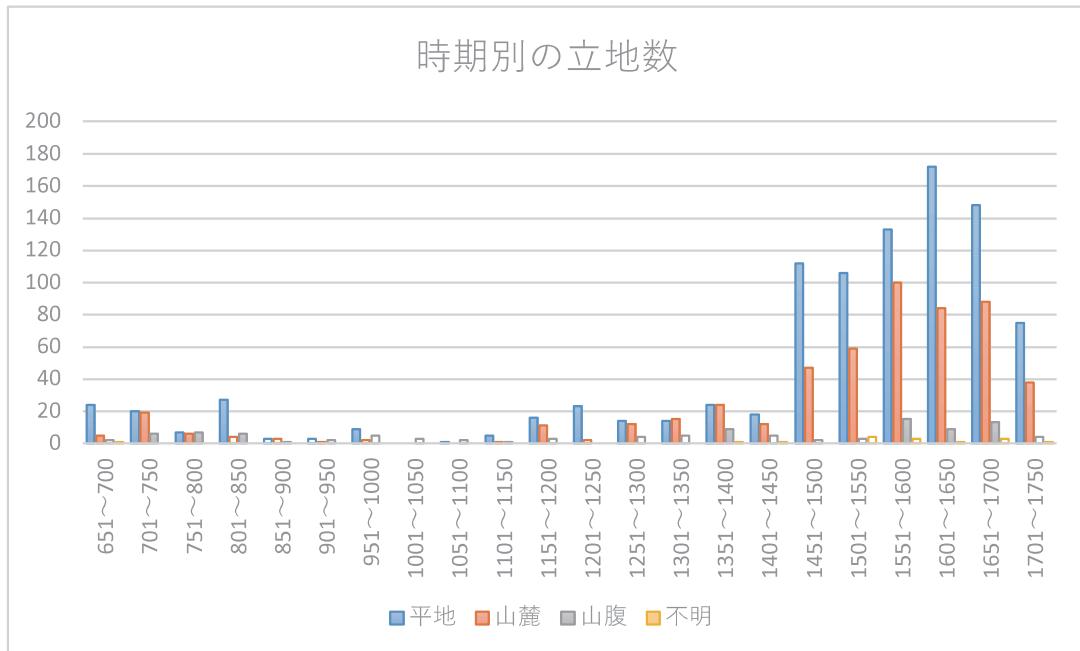


表20 時期別の立地数

西暦 内容 \	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	合計												
西暦	24	20	7	27	3	3	9		1	5	16	23	14	14	24	18	112	106	133	172	148	75	954	
内容	平地	山麓	山腹・山頂	不明																				
	5	19	6	4	3	1	2			1	11	2	12	15	24	12	47	59	100	84	88	38	533	
	2	6	7	6	1	2	5	3	2	1	3		4	5	9	5	2	3	15	9	13	4	107	
	1														1	1		4	3	1	3	1	15	

※山麓から山腹にかけて存在する寺院は山腹に含めた。



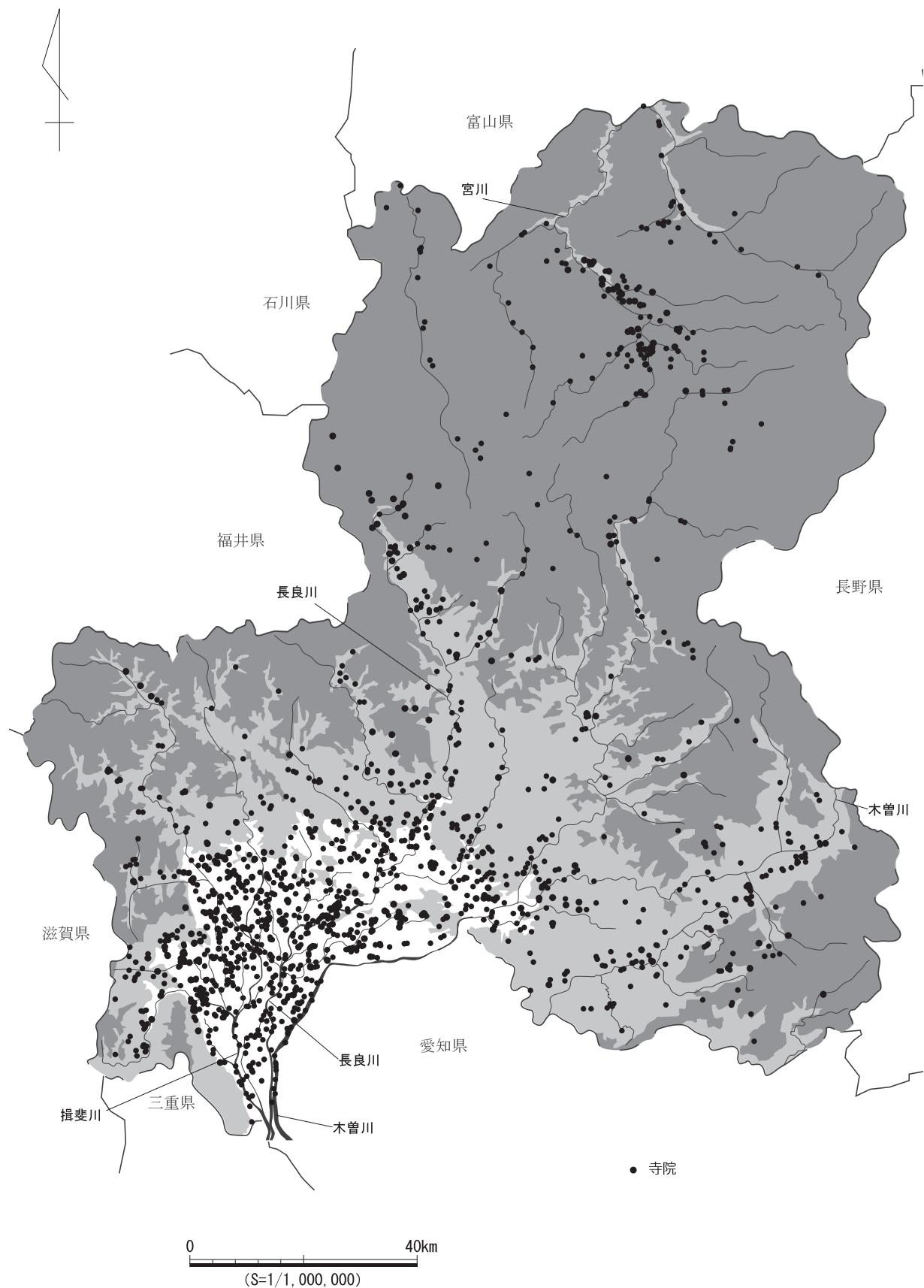


図41 岐阜県古代・中世寺院分布図

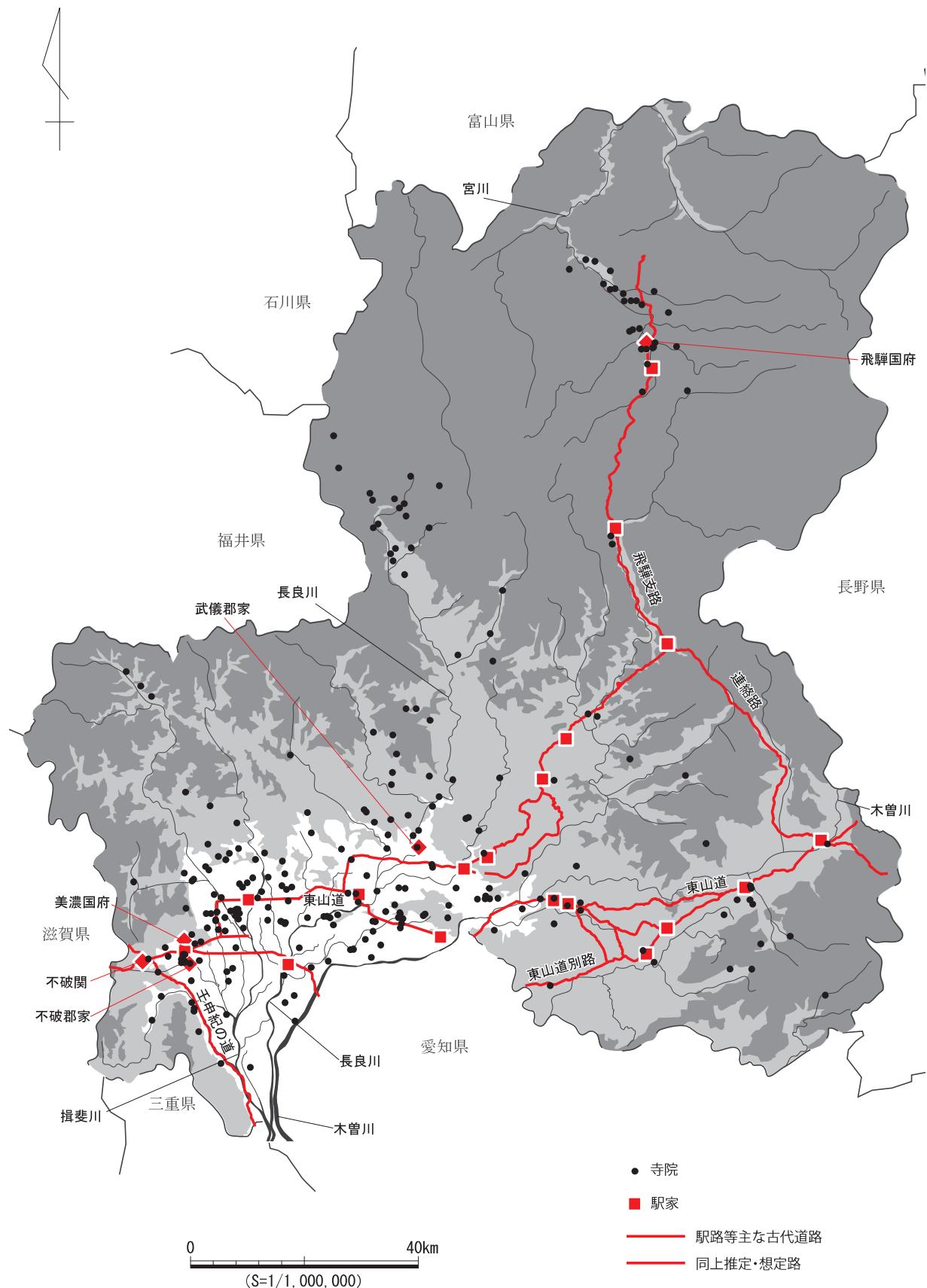


図42 岐阜県古代寺院分布図

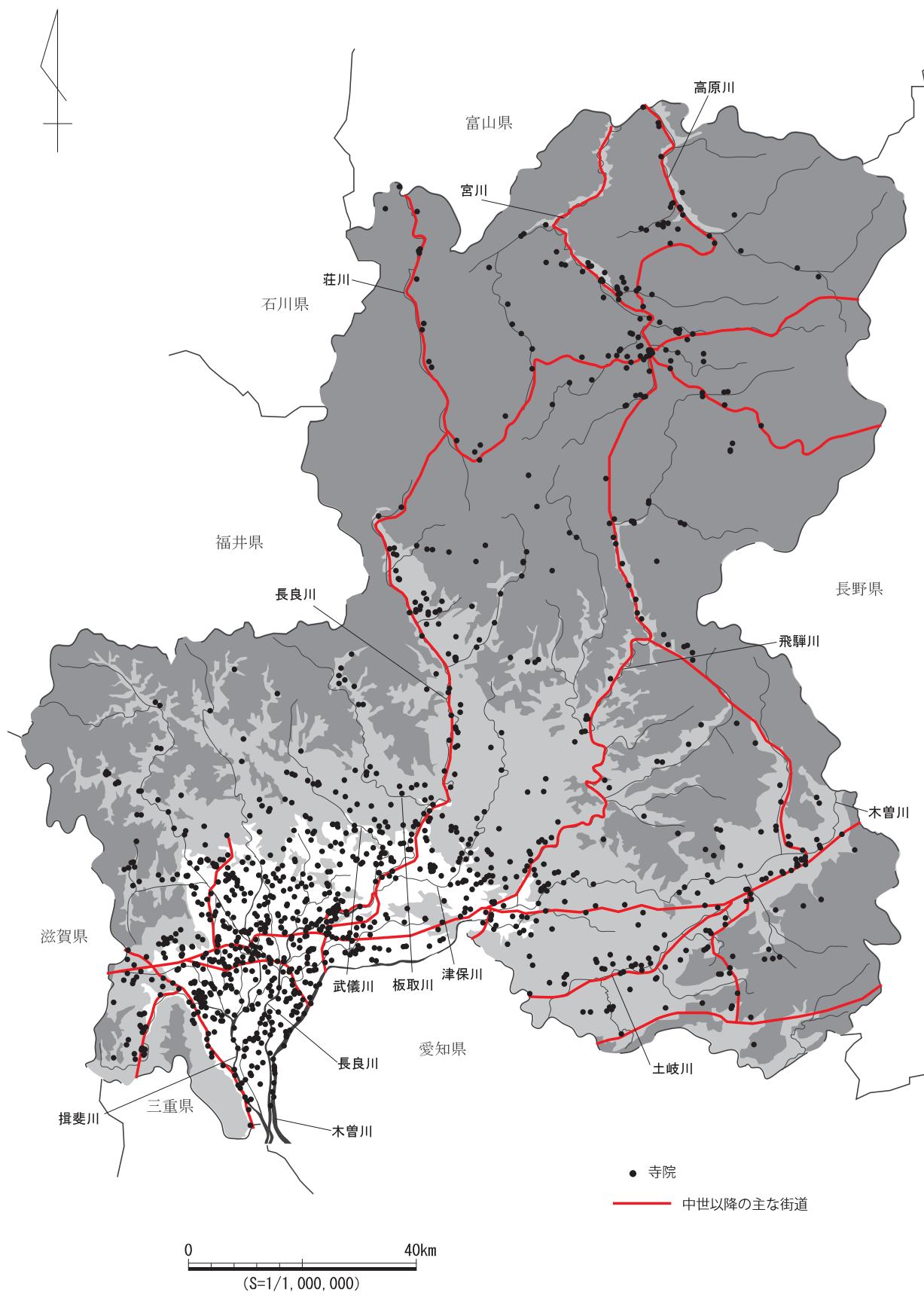


図43 岐阜県中世寺院分布図

表21 寺院関連地名一覧表(1)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
岐阜市	01	(日野)	日野	寺田、総門、大門先、石仏、大日下、堂後、寺山
			長良	竜門寺
			長良雄總	大門西、大門東、座禪洞
			長良福光	長生寺、崇福寺、寺裏、寺前
		(島)	長良古津	寺之前、坊ヶ洞、坊ヶ洞山
			旦島	経堂
			東島	寺屋敷、寺西
		(鷲山)	鷲山	堂屋敷
			下土居	正明寺、北門
		(常磐)	打越	大門下
			長森切通	寺浦、根入坊
		(長森南)	長森高田	古薬師
			長森東中島	坊浦
			長森細畑	徳光寺
		(長森北)	長森北一色	天王寺
			長森左兵衛新田	大門先
			長森野一色	観音堂、寺東
			長森前一色	大門
		(木田)	木田	寺田
			下尻毛	寺前
		(岩野田)	栗野	寺内、寺内前、鐘鑄、神宮、寺沖
			岩崎	仏供田、淨土洞、善能寺
			三田洞	金藏坊、古堂、鐘撞、薬師洞、地蔵田
		(黒野)	今川	弁財天
			黒野	円満寺、大門、観音堂
		(方県)	石谷	寺之町
			佐野	寺田、石仏
		(茜部)	彦坂	善仏
			茜部	別当、観音、綏木堂、寺村中、外大門、寺屋敷村中
		(鶴)	鶴	地蔵堂
			(西郷)	明音寺前、明音寺西、明音寺、明音寺浦、堂街道、十王堂、寺内、改生寺
		(七郷)	中西郷	寺内東、寺屋敷、改生寺、阿弥陀堂、寺内西、寺内裏、阿弥陀寺
			又丸	木寺
		(岩)	岩滝	法花寺
			江崎	鐘鑄
		(鏡島)	鏡島	薬師前
			下川手	大日
		(厚見)	領下	閻魔堂、堂前、薬師
			(日置江)	茶屋新田
		(芥見)	重善寺	
			芥見	大般若、地蔵島、寺東、寺前、薬師洞
		(岩井)	岩井	寺屋敷
			加野	東寺ヶ洞
		(合渡)	寺田	
			一日市場	經塚
			鏡島	寺田東
		(三輪)	石原	神宮堂、正念寺、永福寺、塚名堂
			太郎丸	六地蔵西、寺洞、寺下
			溝口	寺西
			三輪	南坊、野々御堂、清説寺
			茂地	御堂前
			森	大日
			山県岩	見寺洞
			山県北野	寺山
		(網代)	世保	大日
			秋沢	薬師
			奥	寺洞、アマコセ
			西秋沢	寺洞
			則松	尼ヶ洞、観音洞、両谷寺、観音谷、尼ヶ谷
			難倉	阿弥陀堂、大門、斎宮寺、庵ノ洞
		葉栗郡 (柳津町)	佐波	大正寺、寺内堀、大了寺
			岩崎	浄土洞、仏供田、善能寺
			三田洞	地蔵田、薬師洞、金藏坊、古堂、鐘撞
			栗野	寺沖、寺内前、鐘鑄、寺内
		山県郡 (岩野田村)	太郎丸	六地蔵西、寺洞、寺下
			石原	神宮堂、正念寺、永福寺、塚名堂
			岩井	寺屋敷
			加野	古門、東寺ヶ洞、西光寺
		山県郡 (巣美村)	森	安養寺、大日
			溝口	寺西
			世保	大日

表22 寺院関連地名一覧表(2)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
岐阜市	01	山県郡 (山県村)	北野 三輪 岩	寺山大廻 南坊、野々御堂、清語寺 見寺洞
大垣市	02	(青墓村)	青墓 矢道 豆飯	地蔵、元円光寺、不動谷 地蔵堂、觀音堂 尊長寺、寺ノ前
			(赤坂町) (荒崎村) (宇留生村)	枳迦堂、大門前、富士堂、堂之前、虛空藏下、虛空藏裏、虛空藏
			(静里村)	長松 荒尾 久徳 檜
			南一色町 南若森町 北若森町 割田町 上笠町 古宮町 北方町 三ツ屋町 領家町 西之川町 中川町 中野町 林町7丁目 貝曾根町 南市橋町 墨俣町 上石津町 (牧村)	寺田 寺前、寺狭間 寺烟 寺島 薬師堂、外薬師堂 大聖寺 寺前、寺西、新福寺 鐘突、別當 小寺、別當 新門寺 薬師、地蔵、小寺、觀音寺 薬師 恵比寿堂 寺前 虛空藏下 寺町 石仏 門前
			上石津町 (多良村)	下多良 谷畑 奥 禪宣上 上多良 西山
			上石津町 (時村)	堂角 野無坊 野無坊、坊之下 茂中堂土 堂之上、北堂木、堂木谷 堂木、向堂木
			下山 打上 堂之上 細野 時山	寺中 仏谷 堂之上 神明堂 毘沙門
	03	(瀧町) (岩井町) (塙屋町) (漆垣内町) (大洞町) (三福寺町) (上野町) (石浦町) (花里町) (西ノ一色町) (江名子町) (千島町) (松本町)	(瀧町) (岩井町) (塙屋町) (漆垣内町) (大洞町) (三福寺町) (上野町) (石浦町) (花里町) (西ノ一色町) (江名子町) (千島町) (松本町)	塔洞、念仏平、御堂の後、経塚、塔屋敷 寺ノ東 堂の上 吉野坊、東光寺、道場 大門 堂の前、天照寺町 昌林寺道、塔屋敷 定見地(常憲寺)、尼ヶ谷、門前、堂洞、巾穴洞 善応寺 觀音平、古寺 入道洞、来迎寺 靈泉寺、靈泉寺山 鐘銅煙
			万石 青屋 寺附 浅井 寺沢 宮ノ前 桑之島 胡桃島	淨願寺、薬師堂 不動ケ洞 上寺附、寺附向、石仏 大日、念仏平 寺垣内 念仏平 不動洞、念仏ケ平
			中洞 中之宿 猪之鼻 大古井 上ヶ洞 池ヶ洞 阿多野郷 野麦	地蔵尾谷、地蔵尾 御堂の平 坊主ぼき、念仏 経塚 石仏 巫藏、小念仏尾、念仏尾 寺が沢、石仏 寺ヶ坂
			益田郡 (朝日村)	
			益田郡 (高根村)	

表23 寺院関連地名一覧表(3)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
高山市 03		吉城郡 (上宝村)	一重ヶ根	経塚
			神坂	八王寺
			今見	木場ノ堂
			長倉	堂ノ上、東堂ノ下、経塚
			金木戸	寺ノ下、寺ノ後
			双六	小坊山、堂ノ上テ、仏念、御堂洞
			荒原	石仏
			蔵柱	堂殿、フドウ
			三日町	堂ヶ洞
			牧ヶ洞	寺洞、寺ヶ洞
大野郡 (清見村)		大野郡 (清見村)	藤瀬	入道洞、寺林、寺ノ前
			三ツ谷	寺洞
			奥野俣	念仏野、西門光、石仏洞
			上小島	西不動、東不動
			夏厩	寺ノ前
			池本	寺垣内
			森茂	御堂ノ前、御堂野、堂ノ前、不動沢
			無教河	堂之垣内
			久々野	経塚、堂之下、堂ノ上、堂田
			小屋名	来迎寺、経塚
大野郡 (久々野町)		大野郡 (国府町)	久須母	寺之上
			小坊	大坊谷
			長淀	薬師堂洞
			阿多柏	坊主休湯
			三川	堂賀洞
			上庄瀬	安城寺、下別当、上別當
			村山	弥陀ヶ洞
			糠塚	坊洞
			金桶	堂ノ前
			瓜廻	高堂洞、堂ノ前
大野郡 (莊川村)		大野郡 (莊川村)	名張	寺洞
			宇津江	高堂洞
			庄瀬町	十王堂、たうのこし、塔たい、塔ノ前、塔の木
			三日町	鍛鉄田、堂ノ下、辻坊、正法院、陀弥ヶ洞、瑞香庵、十王堂
			黄輪	円光寺
			東門前	寺ノ下
			八日町	正面寺、常楽寺、観音堂
			桐谷	觀正寺、御堂ノ洞、清峰寺
			木曾垣内	二ツ寺、袈裟田、堂前、堂ヶ洞
			鶴巣	寺山谷
大野郡 (丹生川村)		大野郡 (丹生川村)	六瓶	堂ノ尾、不動島
			三谷	不動島
			三尾河	ビクニ沢
			寺河戸	
			新淵	寺地
			牧戸	寺ヶ洞
			岩瀬	不動谷
			中野	カネツキドウ、寺内町、寺町通
			海上	弥勒堂
			尾上郷	大日ヶ岳
			駄吉	寺ヶ洞
			板殿	寺ボタ
			大谷	大門、庵堀
			法力	大乗坊
			殿垣内	スズミ堂洞、薬師堂、念仏平
			小木曾	正宗寺山
			下坪	堂田
			坊方	長見寺、阿弥陀、千歳寺
			町方	千歳寺、念仏洞、寺社ヶ洞、二王堂平
			下保	千光寺
			桐山	入道洞
			大萱	東坊、坊沼、大乗坊
			折敷地	観音堂
			大沼	堂田
			三之瀬	地藏堂平、地藏堂谷
			柏原	入道洞、不動谷、不動平
			大野郡 (宮村)	弥陀ヶ洞、薬師洞、常泉寺

表24 寺院関連地名一覧表(4)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
多治見市	04	可児郡 (小泉町)	根本	地蔵堂
			大原	普賢寺
			野中	清水庵
		可児郡 (豊岡町)	長瀬	瑞璫寺
		可児郡 (姫治村)	北小木	金剛岩
		可児郡 (池田村)	池田町屋	堂ノ下、石堂、寺東、觀音寺、下觀音寺、大門
		土岐郡 (泉町)	高田	寺見坂、积迦前
		土岐郡 (市之倉村)	市之倉町	地藏ヶ峯、庵ヶ洞
		(多治見町)	多治見	堂脇、堂洞口、堂洞、堂前、寺際、堂場北、堂場南
		(笠原町)		寺浦、寺下、地蔵下
閑市	05	(田原村)	迫間	寺洞
			大杉	香林庵
		(上之保村)	鳥屋市	念佛、寺田段、寺田洞、寺田、寺畑平、仏岩
			行合	不動島、比丘尼屋敷、薬師前
			川合中	寺貝津、伽藍
			和田野	福昌寺
			明ヶ島	小軒道寺、軒道寺、軒道寺口、寺ヶ洞
			船山	地藏段、寺前、薬師嶋、觀音前、庵之谷内
		(閑市)	塔之洞	奥寺
			西本郷	五庵田
			東本郷	寺嶋
			小瀬	毫ノ門
			池尻	尼ヶ洞、寺下、弥勒寺、寺ヶ洞、薬師
			広見	大日洞
			倉知	鐘撞、石仏、寺前、西庵田、東庵田
			千疋	觀音堂、禪室溝堂
			小屋名	地藏堂、毘沙門、坊下、御堂前
			上白金	下東仙庵、寺前道西、寺前道東、弥勒堂
			下白金	寺東、寺前、古虛空藏、法花堂
			山田	正道寺
			保明	寺畑
			西田原	寺東
		(洞戸村)	迫間	寺洞、寺西、寺脇
			大杉	香林庵
		武儀郡 (洞戸村)	下有知	龜僕、鐘撞、觀音、觀音下、才泉坊、才泉坊山下、地藏下、大門先、寺下、寺田、寺東、中長保寺、西長保寺、入道、薬師、薬師裏、薬師西、薬師前
			東志摩	林光庵
			西神野	天国寺、入道洞、不動前、薬師
			神野	正樂寺、大日前、寺洞、塔ノ洞、迎寺洞、坊地
			上大野	阿弥陀下、薬師
			志津野	勘定寺、經常、寺前、美社門、坊城
			小野	觀音寺洞口、寺前、徳岸寺洞、徳岸寺洞口、堂前、薬師下、觀音寺洞
			通元寺	
			片	金剛寺
			下洞戸	薬師前
		武儀郡 (板取村)	栗原	寺前
			山田町	今光寺、堂洞
			小田	寺之前、正法寺、御堂下
			土岐	不動前、寺屋敷、曼茶羅見、順祉堂、桜堂
			稻津	長慶寺、大藏寺
			日吉	堂垣外、堂ヶ洞、東寺、円池寺、北堂ヶ洞、寺裏
			明世	大満堂、薬師堂前、不動洞、寺洞、堂地、楓堂
			寺河戸	西門
			白谷	岩村寺南、寺尾、觀音洞
			杉原	薬師下
		武儀郡 (武芸川町)	谷口	寺尾、寺嶋、堂上、大日、土佐洞、薬師前
			宇多院	
		武儀郡 (武芸川町)	平	薬師前
			小知野	鐘鑄洞、香積寺、大門
			八幡	西地徳寺、東地徳寺、大日廻
			高野	天王寺
			跡部	寺ノ洞、三王寺、御申堂、流源寺

表25 寺院関連地名一覧表(5)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
関市	05	武儀郡 武儀町 (富之保)	水成	神宮堂、寺洞
			祖父川	伽藍
			粟野	堂丁、伽藍
			大洞	寺前
			武儀倉	下氏庵、上氏庵、下寺谷、中寺谷、上寺谷、奥寺谷
		武儀郡 武儀町 (中之保)	雁曾礼	下堂谷内、上堂谷内、中堂谷内、仏石
			久須	寺尾
			温井	經文淵
			寺田	石仏
			多々羅	觀音浦、寺屋敷
		武儀郡 武儀町 (下之保)	若栗	寺ノ上、寺前、入道洞
			大門	寺洞
			西洞	楓堂
			多良木	寺尾
			山県郡 (保戸島村)	保明
		山県郡 (千疋村)	千疋	禪宣講堂、觀音堂
中津川市	06	(中津町)	中津川	地藏堂、法道寺、坊垣外
			駒場	松源寺
			手賀野	円通寺
		(坂下町)	坂下	上鐘、松源寺、大門、時鐘、梵字
			(加子母村)	堂垣戸
		(付知町)		御堂垣内、御堂後、暮鐘、寺烟、寺山
			(蛭川村)	寺橋、長老寺、上之坊、中之坊、下之坊、円藏寺、坊之前、地藏山、寺地岳、念仏堂、寺坂、兼行坊、石仏
		(坂本村)	千旦林	六地蔵、岩屋堂
			(阿木村)	寺領、寺島、大門前、まんじ、両伝寺、不動、左大坊、清休坊、聖坊主、竜泉寺
		長野県 西筑摩郡	飯沼	大日向
			神坂	寺洞、寺向、坊主ナギ
			前野	林光庵
美濃市	07	(洲原村)	下河和	寺洞
			上河和	裏門
			須原	鐘鋤場
			立花	大師、大門脇、御堂ノ上、薬師下
		(下牧村)	長瀬	庵ノ下
			神洞	庵ノ洞、弥堂平、薬師前
		(上牧村)	上野	御申堂、御堂ノ下、鐘鋤場、寺山
			乙狩	堂屋敷
			御手洗	千手岩、寺洞
		(大矢田村)	小倉	庵ノ洞
			大矢田	觀音前、龜藏庵、高禪寺、大別当、大門東、大門西、寺屋敷、寺前、寺下、堂ヶ洞、堂ヶ洞川東、薬師洞
		(藍見村)	極樂寺	寺山
			笠神	正林寺前、三井寺
		(中有知村)	横越	觀音寺、清願寺、外堂、長福寺、寺後、薬師前
			松森	觀音堂、善應寺、寺下、寺前、寺庄洞、寺洞
		(中有知村)	生柳	大日西、大門脇
			志摩	林光庵
羽島市	09	羽島郡 (足近村)	北宿	寺屋敷、寺東
			東小熊	寺東、薬師裏
		羽島郡 (正木村)	森	地藏前、寺添
			須賀	明城寺
			大浦	明城寺
			光法寺	光法寺前
		羽島郡 (竹鼻村)	大佐町	
			獣穴	真修寺、光淨寺、寺東、地藏堂曲輪
		羽島郡 (福寿村)	蜂尻	寺東
			間島	寺南
			本郷	觀音堂、正法寺、鐘鑄
		羽島郡 (桑原村)	平方	大門先
			前野	寺西
		中島郡 (江吉良村)	牛南	禪悅
			江吉良	神宮、西神宮
恵那市	10	(中野方村)		靈仙寺、觀定寺、大日、五輪、鐘鋤場
		(等置村)	姫栗	寺田
		(武並村)	藤	御堂前、小僧屋敷
			竹折	大円坊、石仏、毘沙門
		(三郷村)	佐々良木	寺尾
			野井	法仙寺
			椋の実	寺田

表26 寺院関連地名一覧表(6)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
恵那市	10	(長島町)	中野	能万寺、寺の下、阿弥陀外戸、坊屋敷
			久須見	東門
			正家	寺平、古寺
			永田	梅露庵、觀音寺、蓮華寺、日光坊、入道坂
		(東野村)		幸寿庵、大門、庄次坊、齊仙坊、山の寺
			富田	経塚、梅昌庵、申堂、鐘鑄所
		(本郷村)	飯羽間	信寺洞、石仏、寺屋敷、極楽寺
				大通寺
		(遠山村)	馬場山田	坊田、寺尾、大音寺
			上手向	経塚、無量寺洞、無量寺、地蔵縄手、大梅院、仏田、堂ヶ洞、長楽寺、大正寺下、大正寺
			久保原	申堂前
		(鶴岡村)	田代	薬師前
			東方	堂ヶ洞、堂の前
		(静波村)	野志	弥勒前
		(三濃村)	野原	寺坂、六地蔵
		(下原田村)	漆原	阿寺
		(上村)		仏供田、大門、辻見堂、阿寺、坊主洞
		(飯地村)		神明堂
美濃加茂市	11	(太田町)		近所寺、寺井、菩提
			上古井	野寺、寺下、薬師下
			下古井	東御門、御門、寺田、新明堂
		(山之土村)		本地前、寺田、鐘鑄洞、寺下、中寺田、寺元下、麻岸、堂山、上寺田
			上蜂屋	寺畠、寺下
			中蜂屋	大仲寺、寺前
			伊瀬	円満寺
		(加茂野村)	今泉	洞泉寺
			市橋	経塚
			稻辺	尼ヶ屋敷
		(坂祝村)	深田	東堂庵、西堂庵、西講堂
			深萱	利生寺、田中堂、念佛堂
			勝山	見城寺
			取組	寺東、寺裏
		(伊深村)		薬師谷、西宮寺、寺洞、御門、慈眼庵、寺洞
		(三和村)	川浦	地藏峠
		(下米田村)	為岡	毘沙門、薬師西
			東柄井	堂前、申堂、神宮堂
			小山	寺屋敷
			今	玄正庵
		(上米田村)	下飯田	堂之前
			比久見	寺屋敷
			下吉田	申見堂
土岐市	12	(土岐郡) (土岐津町)	高山	明楽寺
			土岐	寺前
		(土岐郡) (下石町)		古寺、寺下、薬師洞
				神宮、奥山寺、山寺、八王寺
		(土岐郡) (鶴里村)	柿野	堂上平、寺洞、堂洞
			細野	仏田
		(土岐郡) (曾木町)		君ヶ塔、寺田
				坊洞、大門
		(土岐郡) (黙知町)		
		(土岐郡) (肥田町)	肥田	大門
		(土岐郡) (泉町)	定林寺	正庵、阿弥陀池
			大富	大日、寺田
			久尻	明堂、寺屋敷、弁天洞
各務原市	13	(那加地区)	那加新加納町	東光寺
			那加長塚町	寺山
			那加桐野町	寺前
			那加西市場町	寺田、法円寺
			那加前洞町	大門先
		(稲羽地区)	大野町	觀音堂、寺屋敷
			小佐野町	寺社門
			三井町	寺東、寺浦、鐘鑄場
			前渡西町	薬師北、薬師西、常貞寺西、薬師南、薬師東、西宮寺
			前渡東町	弁天東
			大佐野町	如来川南
			下中屋町	寺浦

表27 寺院関連地名一覧表(7)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
各務原市	13	(蘇原地区)	蘇原伊吹町	坊之屋敷、正坊塚
			蘇原古市場町	来正坊
			蘇原東島町	円光寺
			蘇原熊田町	正福寺
			蘇原寺島町	
			蘇原野口町	南堂、薬師
		(鵜沼地区)	鵜沼	薬師、大安寺洞、寺口東、寺口西、宝積寺山、駆國寺、東薬師
		(各務地区)	各務	社宮寺
		(川島町)	小網町	少林寺、少林寺前河原
			松倉町	寺前、大師前
			河田町	西光坊
			渡町	寺屋敷
可児市	14	(今渡町)	今渡	大門先
			川合	御堂脇、寺田
		(帷子村)	背刈	薬師前、薬師坂、堂ヶ洞
			東帷子	寺前、上清涼寺、吉養寺、堂ノ下洞、瑞光寺
		(春里村)	矢戸	大善坊、下寺田、上寺田、堂前
			塙	庵ノ洞、寺井
			塙河	六十坊、勘定寺
			長洞	觀音洞
		(姫治村)	下切	山寺、觀音堂、山寺前
		(平牧村)	羽崎	山寺、燈明庵、塔之洞、風光寺田、杉寺、不考寺、堂洞
			大森	杉之堂
		(久々利村)	久々利	薬師洞
			柿下	明堂
			柿下入会	弘法西洞、弘法東洞
		(広見町)	広見瀬田	東栄寺洞、寺ヶ洞
			広見	新福寺、長福寺、山寺前
		(伏見村)	中恵土	寺廻、西光寺
山県市	15	高富町	高富	寺洞
		高富町 (富岡村)	高木	大師
		高富町 (桜尾村)	椎倉	寺田
		伊自良村 (上伊自良村)	長瀧	鐘錠場、千号寺
			平井	長福寺
			掛	大門
			松尾	知勝院
		美山町 (富波村)	富永	美堂向
			青波	寺ヶ町
		美山町 (谷合村)	谷合	寺洞
		美山町 (葛原村)	葛原	不動野、大師洞
		美山町 (北山村)	神崎	寺子
		円原	寺子	
		美山町	笛賀	大門
			椿	寺ノ洞、寺古ヤシキ、大般若開
			日永	寺脇
			岩佐	小原寺裏、東大門、西大門、石仏、寺山、野寺、觀音洞、寺ヶ洞
瑞穂市	16	穗積町	馬場	觀音堂
			生津	大門前、大日浦
			本田	大門、大門前、大日裏、通玄寺廻り
			宝江	觀音堂
			美江寺	
		巢南町	居倉	大門前
			森	寺前
			田之上	大門町、寺町
			宮田	寺内
			大月	堂先
		巢南町	重里	南寺前、北寺前、寺田、寺前
			美江寺	大門裏、鳥羽堂、寺屋敷、古大門、談議所、西御堂後、東御堂後、大門町
			十七条	赤坊、赤坊町
			十八条	念仏田

表28 寺院関連地名一覧表(8)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
飛騨市	17	古川町	上町	大日
			是重	西之御堂
			向町	石仏
			上氣多	薬師洞
			中氣多	経塚、地蔵堂
			杉崎	毘沙門
			袈裟丸	寺ノ下、奥御堂
			敷河	大御堂、王御堂向
			高野	光尊寺、仏洞、御堂洞
			谷	本堂洞
			信包	御坊様、城見寺垣内、石仏、仏洞
			寺地	坊主ヶ畑
			畦畑	御堂平、石仏、御堂洞
		河合村	角川	堂前、寺下、二ッ御堂、京塚、地蔵、阿ミ陀堂、寺ノ上
			薬師ノ下	薬師ノ前、薬師ノ下
			月ヶ瀬	堂ノ上、堂之きわ
			舟原	堂ノ前
		宮川村 (坂上村)	穂越	堂垣内、仏棚
			小谷	みどの向
			三川原	にくぞう、堂ノ下
			高牧	堂軒
			西忍	堂ノ軒
			折保	大門前、堂前
		神岡町	桑野	きようずか
			杉原	寺ノ上、門ノ平、老僧畑、寺ノ下
			船津	大門町、寺ノ上
			朝浦	不動谷
			東漆山	寺ノ前簇
			西漆山	御堂前、地蔵山
			土	觀音ノ外、觀音堂前
			跡津川	寺ノ上、寺ノ下、地蔵堂
			釜崎	不動谷向、不動谷
			吉田	キウデン、阿ミで洞、阿弥陀ヶ洞、寺垣内
			小萱	仏師ヶ洞
			丸山	中寺、寺下
			和佐保	堂ノ向、寺ヶ洞
			麻生野	御殿上、入道洞
			石神	寺垣内
			伊西	寺ノ下、ケサノ前
			森茂	堂垣内
			下之本	寺ノ下タ、坊ノ前、坊田、坊ノ下
			和佐府	寺ノ面
			打保	堂ノ上
			寺林	堂ノ前、阿弥陀堂、坊ノ洞、寺ヶ平
			伏方	経塚、御堂野
			山田	小寺洞、寺ヶ洞、どうで、どうで平
			大笠	どうで、どうで平
			柏原	不動田、寺ノ屋敷、そとう、みどの上、堂の前、かんのん堂、どうで畠
			瀬戸	不動向
本巣市	18	本巣町	金原	觀音堂
			佐原	寺田、道寺、大門、寺浦
			木知原	地蔵前
			外山	石仏、藏塔洞、千号寺谷、西千号寺、東千号寺、堂生下、神宮寺
		本巣町	曾井中島	寺内
			法林寺	右門
			文殊	西ノ門、宝珠道東、宝珠道西、南当門道南、宝珠
		真正町	上真桑	大正寺
			下真桑	大門、大門前、寺田
			輕海	東香柳寺、西香柳寺、石仏
			十四条	寺田、寺前、菩提坊
			宗慶	鐘付田
			小柿	寺屋敷
			温井	地蔵堂
		糸貫町	上保	弥勒寺
			北野	柳堂、元正寺
			郡府	幾田寺、寺後、寺前、庵後、大門、祇園堂
			石原	堂前、庵ノ前
			春近	西林寺、大門、寺畑
			仏生寺	薬師、寺畑、下戸、上光寺
			三橋	小大門
			屋井	寺後、堂ノ城寺
			有里	曾井方
			数屋	地蔵、地蔵西堤外、千光寺

表29 寺院関連地名一覧表(9)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
本巣市	18	根尾村	水鳥	野寺、手寺
			樽見	新行堂
			市場	薬師前
			神所	速ヶ寺、西後寺
			中	寺屋敷
			大井	正權寺、道場奥
			長峰	寺洞
			天神堂	
			能郷	正權寺
			黒津	鄉鐘
			奥谷	花王寺
			船立	堂ヶ洞、觀音堂、寺田簇、寺反歩
			大鷲	寺平、八百僧、御坊主、若庵
			鷺見	寺会津、堂ヶ洞、平僧
			西洞	中抜堂
郡上市	19	郡上郡 (高鷲村)	中津屋	堂社ヶ平
			六ノ里	寺洞、寺尾
		郡上郡 (白鳥町)	中西	寺垣内
			那留	坊ヶ市
			前谷	大日岳
			歩岐島	伽藍ヶ瀬
			千田野	觀音堂
			長瀧	大門、地藏山、伽藍ヶ瀬、御坊主口
			二日町	堂垣内、一仏、仏岩、一仏山、寺谷下
			向小駄良	寺垣内、金剛寺
			石徹白	奥高卒塔場、高卒塔場、觀藏寺、下不動ヶ島、中不動ヶ島、不動ヶ島、小谷堂、堂ノ上山、東弥陀ヶ洞、西弥陀ヶ洞
		郡上郡 (明方村)	大谷	仏田、寺ヶ坂、西寺山、北寺山、南寺山、東寺山
			氣良	寺本
			二間手	寺廻り、袖坊
			河辺	薬師前、井寺、井寺口
		郡上郡 大和村 (山田村)	神路	仏岩
			牧	居寺、大門下タ
			要巣	薬師前
			剣	大門、ビクニ平、毘沙門洞
		郡上郡 大和村 (弥富村)	大間見	寺ヶ野
			万場	寺田、寺会津、庵ノ後、大門
		郡上郡 大和村 (西川村)	島	堂淨、坊ヶ野
		郡上郡 (和良村)	鹿倉	寺田
			宮代	毘沙門、念仏洞
			野尻	寺田、寺尾
			三庫	大門フチ
			沢	寺畠、寺前、堂ノ前、伽藍、寺平
			法師丸	堂前
			土京	仏田
			方須安郷野新田	坊ヶサレ
		郡上郡 (八幡町)	島谷	寺ヶ市
			五町	觀音通、觀音前、堂満尾下
			有坂	堂前
			中坪	寺谷通
			初音	薬師洞、薬師畑、仏石、堂前、大日、寺島、堂ガタナ、二堂洞、寺ヶ洞
			吉野	上石仏、下石仏
			相生	比丘尼、寺本、比沙門
			那比	石仏、東坊、寺尾、觀音前、觀音田、薬師、薬師ノ上、寺尾洞
			小野	比丘尼坂
			初納	堂前
		郡上郡 (美並村)	旭	寺畠
			美山	寺脇、寺前
			小那比	美堂洞、堂ヶ平
			高砂	薬師前、坊切、向坊切
			山田	大門、寺瀬、塔還
		郡上郡 (三戸村)	梅原	薬師前
			三戸	寺田、薬師前
		郡上郡 (大原村)	大原	寺保田、東光寺、薬師寺、大門

表30 寺院関連地名一覧表(10)

現市町	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
下呂市	20	萩原町	宮田	大門
			大ヶ洞	金剛洞、寺垣内、堂洞
			奥田洞	大日、寺の下、寺山、ふどう洞、入道洞
			上呂	堂前、御堂前、大小坊、寺洞、さくじ門
			萩原	寺田、山之坊
			上村	寺畠
			中呂	山の坊
		(川西村)	尾崎	馬頭
			野上	仏ヶ尾、美小坊
			羽根	寺屋敷
			古閑	仏原
		小坂町	大島	入道洞
			赤沼田	地蔵坂下、大念仏、念仏平
			湯屋	念仏
			大洞	大三藏
		(下呂村)	森	大門
			小川	仏洞
			少ヶ野	ねんぶついわ
			三原	つりがね
		(竹原村)	御厩野	直野般若谷、威徳寺
			野尻	不動
			宮地	不動洞、仏ヶ向
		下呂町 (竹原村)	乗政	寺前、寺田小屋、寺垣内、不動平、不動洞
		(上原村)	門和佐	寺ヶ洞
			田口	如来平
			夏焼	観音平、御堂前、経堂ヶ洞
			蛇之尾	不動洞、不動洞東側、寺屋敷
		(中原村)	久野川	御堂前、寺垣内
			保井戸	坊主石
			火打	地蔵ヶ洞
			中切	地蔵野
		(下原地区)	下原町	地蔵堂
			大船渡	経塚垣内
			福来	石仏
			金山町 (菅原地区)	菅原桐洞
		(金山地区)	金山	寺尾、十王坂、寺之下、修羅本谷
			岩瀬	観音前
			祖師野	八福堂
			戸部	天神堂、寺本
		馬瀬村	東杏部	観音、寺前
			名丸	念仏平
			黒戸	御堂垣内
			川上	仏壇
			井谷	寺前、寺前平
			西村	みろく、みどの前、不動森、庵垣内、坊はば
海津市	21	海津町		
		平田町	西島	地蔵前
			二郷	法正寺
			仏師川	
			野寺	
			幡長	寺島、寺島前
		南濃町	蛇池	寺東
			上野戸戸	法華寺、葉師下、堂島
			奥条	久才坊
			駒野	寺西
		南濃町 (下多度村)	津屋	観音、正蓮寺、寺屋敷、鐘鑄場
岐南町	22	—	上印食	寺田
			下印食	堂前
			平島	上寺山
			葉師寺	
			伏屋	大門
笠松町	23	羽島郡 (下羽栗村)	円城寺	
			無動寺	
			北及	比丘尼上り、寺起
			門間	勘定寺

表31 寺院関連地名一覧表(11)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
養老町	24	(高田町)	高田	蓮寺
		沢田	大門、堂谷	
		(養老村)	童泉寺	威徳山
		勢至		
		石畠	中門、南門、東門	
		(広幡村)	口ヶ島	寺田
		(上多度村)	鶯巢	葉餌山
		(池辺村)	根古地	北寺西、南寺西
		(笠郷村)	船附	寺屋敷
		(多芸村)	直江	経堂
		(日吉村)	宇田	本堂
		安久	五堂、尼ヶ池、本堂、鐘鑄	
		(合原村)	栗原	九十九坊
		宝原	十王堂	
垂井町	25	(岩手村)	岩手	菩提、頭蓮坊、堂谷、菩提山
		平尾	不動、石仏谷	
		(府中村)	敷原	寺川
		新井	堂田	
		—		金福寺、地蔵
		(宮代村)		八ツ寺、鍼音堂
関ヶ原町	26	(表佐村)		鐘鈸場、地蔵
		今須村		門前
		玉村		堂之前
		関原村	関ヶ原	堂街道、寺田、白別当、寺谷、池寺
			野上	大門、繪大門、菩提道
			藤下	胡摩ヶ谷
			山中	了願寺
			松尾	鐘叩、堂ヶ谷口、堂ヶ谷、法化堂
神戸町	27	—	神戸	大円坊
			末守	枳迦堂、角堂
			北一色	枳迦堂、別當野
			更屋敷	神明堂
			柳瀬	神明堂
			瀬占	神明堂
			四成	中大門、大門
			西保	阿弥陀堂、神明堂
			南方	鍼音堂
			安次	廣大寺
			大六道	廣大寺、不動前
			西座倉	寺町
輪之内町	28	—	輪保	十蓮坊、堤外十蓮坊裡
安八町	29	—	大藪	鐘撞堂、西ノ寺
			東結	寺東
			森部	葉餌、寺内
			中	寺家、坊野
揖斐川町	30	(揖斐町)	三輪	上地蔵堂、下地蔵堂、阿房堂
			大光寺	
			志津山	大塔
		(大和村)	上南方	下三千坊、上三千坊、下金銀堂、上金銀堂、南金銀堂
			極楽寺	
			若松	寺ノ下、地蔵沢
		(養基村)	房島	鐘鈸場、鐘鈸場裏、三千坊
			北方	上北外門、寺瀬戸、中北外門、下北外門、堂ヶ洞
			脛永	門前、門前東、門前南、大門東
			和田	比沙門
			小島	達磨堂、塔寺海道、堂後
			上東野	堂後
			瑞岩寺	
			白樫	大門屋敷
			上野	地蔵堂、葉餌、門ヶ谷
		(清水村)	長良	大門
			谷汲村 (横蔵村)	木曾屋
		(谷汲村)	徳積	東光坊、鐘鈸場、念仏堂、建塔寺、寺山
			名札	中林寺前、寺地
			深坂	御堂山、寺洞、御堂ヶ洞山、御堂ヶ洞、南寺田、寺田、寺屋敷、仁堂山
			大洞	寺山
		(長瀬村)	長瀬	東坊所、大門下、御堂前、神明堂
			高科	庵ノ前
		(春日村)	六合	堂ノ西、堂ノ後、宮寺
			小宮神	地蔵尾
			川合	伊所堂、地蔵平
		美東		寺谷

表32 寺院関連地名一覧表(12)

現市町村	市町村番号	旧都 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
揖斐川町	30	(久瀬村)	三倉	寺塚
			東津波	寺産、小寺
			乙原	庵ヶ井戸、、毘舍子、塔之倉
			小津	御殿寺、堂谷
		(藤橋村)	東横山	堂平
			西横山	寺谷
			東杉原	洗堂
		(坂内村)	坂本	寺社畠、土堂、地蔵堂、番堂
			広瀬	堂前
		(坂内村)	川上	地蔵平
		(徳山村)	塚	寺平
			戸入	道場向
			門入	不動山
大野町	31	(富秋村)	稻富	千代寺、金剛山
			寺内	
			上秋	鞍屋敷、毘沙門、坊主田、弥八、十千坊
		(豊木村)	野	修善寺、不動塚、寺後、南鏡鉄場、東鏡鉄場、中鏡鉄場、北鏡鉄場、堂ヶ洞
			西方	寺内、寺裏
			桜大門	
		(大野村)	下方	明覺寺
			上磯	法正寺、東寺脇、西寺脇
		(川合村)	下磯	西具寺
			西座倉	寺町
			五之里	御坊、寺前
			南方	法花坊
		(糸村)	領家	大日、南大日、寺浦、三千仏、札所
			大衣斐	堂ノ前、金剛寺、法事田
		(西部村)	中之元	願成寺、金剛寺
			瀬古	下加根寺、上加根寺、下出光寺、上出光寺、堂後、曾根寺
			松山	南大門、北大門、二王堂、堂後
			牛洞	仏田、堂場前、大門、石仏前、北寺田、南寺田
池田町	32	(本郷村)	本郷	童德寺、寺前、寺東、觀音堂
			萩原	薬師、觀音堂、鐘鈸場
			山洞	庵前
			小寺	堂向、寺上
			藤代	大門
			田畠	神明堂
		(池田村)	東野	淨光寺河原
			上田	寺分
		(八幡村)	八幡	寺ノ下
			片山	大門、堂ヶ谷、東光寺
			市橋	惣門、開玄坊、淨禪分、新藏坊分、虛空藏下
		(宮地村)	宮地	大門北、大門南
			願成寺	大門末、岡之坊
			般若畑	
			段	大門、古堂下
北方町	33	—	高屋	大門脇、西石仏北ノ町、西石仏南ノ町、東石仏
北方	田門坊、天狗堂、大門、円郷寺、寺内、了法寺、妙建寺裏			
坂祝町	34	(坂祝村)	深田	東堂庵、西堂庵、西講堂
			深萱	利生寺、田中堂、念佛堂
			勝山	見城寺
			取組	寺東、寺裏
富加町	35	(富岡村)	大平賀	薬師前
			羽生	寺前、寺東
			夕田	寺坪
		(加治田村)		山堂洞、寺洞口、寺洞、堂洞、法仙坊
川辺町	36	(川辺町)	鹿塙	寺前
			上川辺	寺前、神宮堂、地蔵峯
			石神	檜堂
			中川辺	西門、二王堂、八階堂、仙立寺、本御堂、三階堂、東光寺
			西柄井	大慶寺、東光寺
		(下麻生町)		寺町、不動前、寺尾下夕、古円寺、大門、寺尾
			奥田	阿弥陀前
			飯高	寺前下
			本郷	寺前
七宗町	37		平堅原	懸薬師南
			野々古屋	野地藏堂切

表33 寺院関連地名一覧表(13)

現市町村	市町村番号	旧郡 (旧町村)	大字など	寺院関連地名(小字)
八百津町	38	(八百津町)	八百津	下寺尾、上寺尾、坊主ヶ洞、大門、老僧ヶ洞、尼ヶ洞、上寺久後、下寺久後、石仏、薬師前
			伊岐津志	申堂、石仏、寺下、上寺田、中寺田、下寺田
		賀茂郡 (和知村)	和知	觀音浦、坊山、鐘附、堂前
			野上	權現堂、米山寺、寺坂、米山寺浦、寺洞
			牧野	不動
			上飯田	寺洞、神宮
			(久田見村)	久田見
		加茂郡 (上吉田村)	上吉田	野地藏堂、觀音平、薬師南、中嵩坊主山、下嵩地藏前、下嵩小谷堂前、下嵩小谷堂ノ東、觀音平
			(福地村)	伽藍、伽藍田
白川町	39	(蘇原村)	切井	塔洞、中之坊
			三川	寺田辻
		(西白川村)	(黒川村)	寺鄉、堂洞
			中川	薬師内、寺畑
			広野	念仏山
			白山	寺ヶ屋敷、庵ノ洞
			河東	寺田、薬師牧
		(佐見村)	上佐見	庵ノ洞口、堂ノ前、庵ノ洞東、庵ノ洞口、庵ノ洞西
			下佐見	寺山、古薬師、石堂場、寺屋敷浦、寺屋敷落
東白川村	40	(東白川村)	神土	不動滝、尼畠、寺洞
			五加	妙觀寺、庵垣、薬師洞
御嵩町	41	可児郡 (御嵩町)	伏見	寺東、堂根、庵ヶ洞
			上恵土	觀音寺、弁財天
			古屋敷	大王寺
			顔戸	大門内東、神宮前洞、菩提樹
			中	尼ヶ池、黒仏、四方堂、西之門、大門東、正宝庵、禪堂
			津橋	地藏洞、堂之下
			井尻	大東庵、神宮屋敷、寺尾
			次月	祈念坊、堂之前、觀音洞
			前沢	経塚
			詰坂	坊ヶ洞
			大久保	地藏根
			中切	天王寺、正願寺洞、岩仙寺洞
			上之郷	寺尾、経塚
白川村	42	大野郡 (白川村)	内ヶ戸	仏峠
			萩町	寺田
			鳩谷	寺尾
			飯島	下セ別当
			平瀬	経塚
			保木脇	堂ノ上

本表では、『角川日本地名辞典 21岐阜県』(角川書店、1980年)に掲載されている「小字一覧」のうち、寺院に関連する可能性がある地名を抽出した。また、寺院の所在地名が寺院関連地名と一致する場合に、該当の寺院名を記載した。寺院関連地名は、自治体史等を参考にしたほか、次の基準によった。

- ①「寺」の文字を含む地名
 - ②「坊」の文字を含む地名
 - ③「堂」「庵」の文字を含む地名
 - ④ 仏像名を含む地名
 - ⑤「神宮」「別當」の文字を含む地名
 - ⑥その他
- 寺屋敷、寺前、寺内、寺田など
 - 御坊、三千坊、坊野、坊ノ下など
 - 觀音堂、本堂、念仏堂、御堂前、堂後など
 - 阿弥陀、毘沙門、不動、地藏など
 - 神宮、別當など
 - 本堂、塔、大門、経塚、鐘鈸場など

表34 年号一覧（1）

年号	よみがな	西暦	年号	よみがな	西暦	年号	よみがな	西暦
大化	たいか	645～650	天延	てんえん	973～976	康治	こうじ	1142～1144
白雉	はくち	650～654	貞元	じょうげん	976～978	天養	てんよう	1144～1145
朱鳥	しゅちよう	686	天元	てんげん	978～983	久安	きゅうあん	1145～1151
大宝	たいほう	701～704	永觀	えいかん	983～985	仁平	にんぺい	1151～1154
慶雲	けいうん	704～708	寛和	かんな	985～987	久寿	きゅうじゅ	1154～1156
和銅	わどう	708～715	永延	えいえん	987～989	保元	ほげん	1156～1159
靈龜	れいき	715～717	永祚	えいそ	989～990	平治	へいじ	1159～1160
養老	ようろう	717～724	正暦	しょうりやく	990～995	永暦	えいりやく	1160～1161
神亀	じんき	724～729	長徳	ちょうとく	995～999	応保	おうほ	1161～1163
天平	てんびょう	729～749	長保	ちょうほ	999～1004	長寛	ちょうかん	1163～1165
天平感宝	てんびょうかんぼう	749	寛弘	かんこう	1004～1012	永万	えいまん	1165～1166
			長和	ちょうわ	1012～1017	仁安	にんあん	1166～1169
			寛仁	かんにん	1017～1021	嘉応	かおう	1169～1171
天平勝宝	てんびょうしようほう	749～757	治安	ちあん	1021～1024	承安	じょうあん	1171～1175
天平宝字	てんびょうほうじ	757～765	万寿	まんじゅ	1024～1028	安元	あんげん	1175～1177
			長元	ちょうげん	1028～1037	治承	ちしょう	1177～1181
天平神護	てんびょうじんご	765～767	長暦	ちょうりやく	1037～1040	養和	ようわ	1181～1182
			長久	ちょうきゅう	1040～1044	寿永	じゅえい	1182～1184
神護景雲	じんごけいいうん	767～770	寛徳	かんとく	1044～1046	元暦	げんりやく	1184～1185
			永承	えいしょう	1046～1053	文治	ぶんじ	1185～1190
宝亀	ほうき	770～781	天喜	てんき	1053～1058	建久	けんきゅう	1190～1199
天応	てんおう	781～782	康平	こうへい	1058～1065	正治	しょうじ	1199～1201
延暦	えんりやく	782～806	治暦	ちりやく	1065～1069	建仁	けんにん	1201～1204
大同	だいどう	806～810	延久	えんきゅう	1069～1074	元久	げんきゅう	1204～1206
弘仁	こうにん	810～824	承保	じょうほ	1074～1077	建永	けんえい	1206～1207
天長	てんちよう	824～834	承暦	じょうりやく	1077～1081	承元	じょうげん	1207～1211
承和	じょうわ	834～848	永保	えいほ	1081～1084	建暦	けんりやく	1211～1213
嘉祥	かしよう	848～851	応徳	おうとく	1084～1087	建保	けんぼう	1213～1219
仁寿	にんじゅ	851～854	寛治	かんじ	1087～1094	承久	じょうきゅう	1219～1222
齊衡	さいこう	854～857	嘉保	かほう	1094～1096	貞応	じょうおう	1222～1224
天安	てんあん	857～859	永長	えいちょう	1096～1097	元仁	げんにん	1224～1225
貞觀	じょうがん	859～877	承徳	じょうとく	1097～1099	嘉祿	からく	1225～1227
元慶	がんぎょう	877～885	康和	こうわ	1099～1104	安貞	あんてい	1227～1229
仁和	にんな	885～889	長治	ちょうじ	1104～1106	寛喜	かんぎ	1229～1232
寛平	かんびょう	889～898	嘉承	かしょう	1106～1108	貞永	じょうえい	1232～1233
昌泰	しょうたい	898～901	天仁	てんにん	1108～1110	天福	てんぶく	1233～1234
延喜	えんぎ	901～923	天永	てんえい	1110～1113	文暦	ぶんりやく	1234～1235
延長	えんちよう	923～931	永久	えいきゅう	1113～1118	嘉禎	かてい	1235～1238
承平	じょうへい	931～938	元永	げんえい	1118～1120	曆仁	りやくにん	1238～1239
天慶	てんぎょう	938～947	保安	ほあん	1120～1124	延応	えんおう	1239～1240
天暦	てんりやく	947～957	天治	てんじ	1124～1126	仁治	にんじ	1240～1243
天徳	てんとく	957～961	大治	だいじ	1126～1131	寛元	かんげん	1243～1247
応和	おうわ	961～964	天承	てんしょう	1131～1132	宝治	ほうじ	1247～1249
康保	こうほ	964～968	長承	ちょうしょう	1132～1135	建長	けんちょう	1249～1256
安和	あんな	968～970	保延	ほえん	1135～1141	康元	こうげん	1256～1257
天祿	てんろく	970～973	永治	えいじ	1141～1142	正嘉	じょうか	1257～1259

※よみがな、西暦は吉川弘文館2006『日本史必携』を参考にした。

表35 年号一覧（2）

年号	よみがな	西暦	年号	よみがな	西暦	年号	よみがな	西暦
正元	しょうげん	1259～1260	至徳（北）	しとく	1384～1387	元文	げんぶん	1736～1741
文応	ぶんおう	1260～1261	嘉慶（北）	かきょう	1387～1389	寛保	かんぽう	1741～1744
弘長	こうちょう	1261～1264	康応（北）	こうおう	1389～1390	延享	えんきょう	1744～1748
文永	ぶんえい	1264～1275	明徳（北）	めいとく	1390～1394	寛延	かんえん	1748～1751
建治	けんじ	1275～1278	応永	おうえい	1394～1428	宝暦	ほうりやく	1751～1764
弘安	こうあん	1278～1288	正長	しょうちょう	1428～1429	明和	めいわ	1764～1772
正応	しょうおう	1288～1293	永享	えいきょう	1429～1441	安永	あんえい	1772～1781
永仁	えいにん	1293～1299	嘉吉	かきつ	1441～1444	天明	てんめい	1781～1789
正安	しょうあん	1299～1302	文安	ぶんあん	1444～1449	寛政	かんせい	1789～1801
乾元	けんげん	1302～1303	宝徳	ほうとく	1449～1452	享和	きょうわ	1801～1804
嘉元	かげん	1303～1306	享徳	きょうとく	1452～1455	文化	ぶんか	1804～1818
徳治	とくじ	1306～1308	康正	こうしょう	1455～1457	文政	ぶんせい	1818～1830
延慶	えんきょう	1308～1311	長祿	ちょうろく	1457～1460	天保	てんぽう	1830～1844
応長	おうちょう	1311～1312	寛正	かんしょう	1460～1466	弘化	こうか	1844～1848
正和	しょうわ	1312～1317	文正	ぶんしょう	1466～1467	嘉永	かえい	1848～1854
文保	ぶんぽう	1317～1319	応仁	おうにん	1467～1469	安政	あんせい	1854～1860
元応	げんおう	1319～1321	文明	ぶんめい	1469～1487	万延	まんえん	1860～1861
元亨	げんこう	1321～1324	長享	ちょうきょう	1487～1489	文久	ぶんきゅう	1861～1864
正中	しょうちゅう	1324～1326	延徳	えんとく	1489～1492	元治	げんじ	1864～1865
嘉暦	かりやく	1326～1329	明応	めいおう	1492～1501	慶応	けいおう	1865～1868
元徳（南）	げんとく	1329～1331	文亀	ぶんき	1501～1504	明治	めいじ	1868～1912
元徳（北）	げんとく	1329～1332	永正	えいしょう	1504～1521	大正	たいしょう	1912～1926
元弘（南）	げんこう	1331～1334	大永	だいえい	1521～1528	昭和	しょうわ	1926～1989
正慶（北）	しょうきょう	1332～1334	享禄	きょうろく	1528～1532	平成	へいせい	1989～2019
建武（南）	けんむ	1334～1336	天文	てんぶん	1532～1555	令和	れいわ	2019～
建武（北）	けんむ	1334～1338	弘治	こうじ	1555～1558			
延元（南）	えんげん	1336～1340	永祿	えいろく	1558～1570			
暦応（北）	りやくおう	1338～1342	元亀	げんき	1570～1573			
興国（南）	こうこく	1340～1346	天正	てんしょう	1573～1592			
康永（北）	こうえい	1342～1345	文祿	ぶんろく	1592～1596			
貞和（北）	じょうわ	1345～1350	慶長	けいちょう	1596～1615			
正平（南）	しょうへい	1346～1370	元和	げんな	1615～1624			
觀応（北）	かんのう	1350～1352	寛永	かんえい	1624～1644			
文和（北）	ぶんな	1352～1356	正保	じょうほう	1644～1648			
延文（北）	えんぶん	1356～1361	慶安	けいあん	1648～1652			
康安（北）	こうあん	1361～1362	承応	じょうおう	1652～1655			
貞治（北）	じょうじ	1362～1368	明暦	めいれき	1655～1658			
応安（北）	おうあん	1368～1375	万治	まんじ	1658～1661			
建徳（南）	けんとく	1370～1372	寛文	かんぶん	1661～1673			
文中（南）	ぶんちゅう	1372～1375	延宝	えんぼう	1673～1681			
天授（南）	てんじゅ	1375～1381	天和	てんな	1681～1684			
永和（北）	えいわ	1375～1379	貞享	じょうきょう	1684～1688			
康暦（北）	こうりやく	1379～1381	元祿	げんろく	1688～1704			
弘和（南）	こうわ	1381～1384	宝永	ほうえい	1704～1711			
永徳（北）	えいとく	1381～1384	正徳	じょうとく	1711～1716			
元中（南）	げんちゅう	1384～1392	享保	きょうほう	1716～1736			

※よみがな、西暦は吉川弘文館2006『日本史必携』を参考にした。（北）は北朝の年号を、（南）は南朝の年号を表している。

写 真 図 版



龍渓寺跡調査前状況（南から・写真左に TP 2 設定）



名号のある巨石周辺（南西から）



TP 1 調査前状況（南西から）



TP 1 調査終了状況（北から）



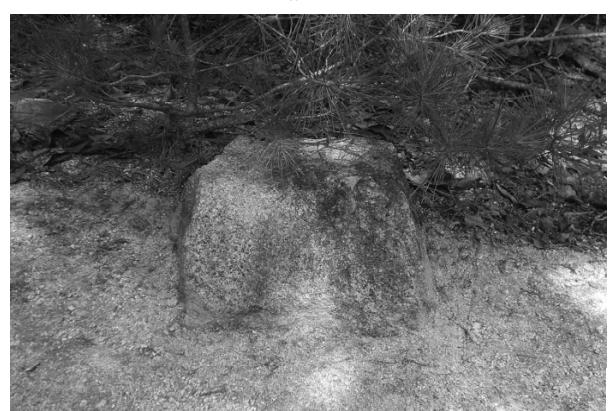
TP 2 調査終了状況（南から）



TP 2 P1・2 遺構検出状況（南から）



TP 3 調査終了状況（西から）



TP 3 P1 遺構検出状況（西から）

図版2 横蔵寺旧境内測量調査



本堂跡基壇（南から）



本堂跡礎石列（南東から）



石敷状遺構（北から）



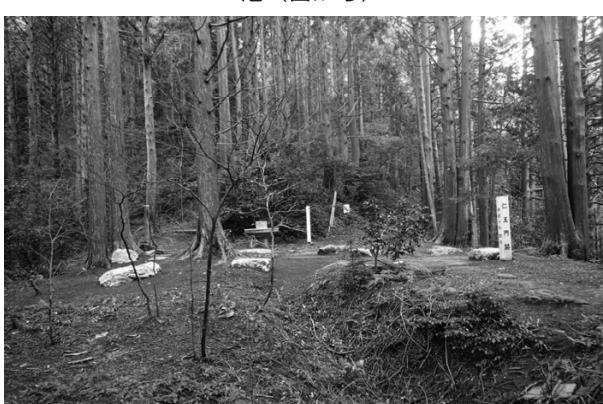
石組遺構（北東から）



池（西から）



池（東から）



仁王門跡（南西から）



仁王門跡（北から）



TP 1 掘削状況（北西から）



TP 2 石塔検出状況（南から）



TP 4 SK 6 土層断面（南から）



TP 4 調査状況（東から）



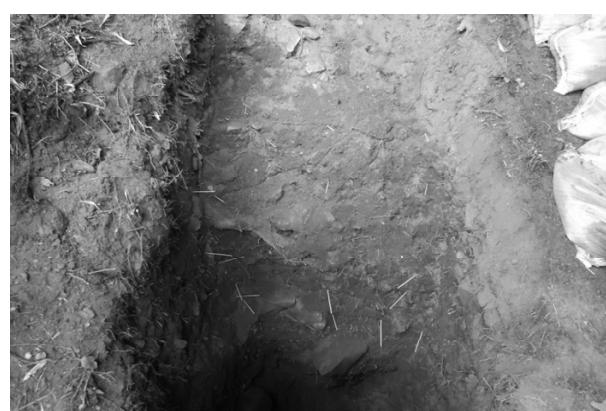
TP 3 南壁土層断面（北から）



TP 5 調査前（南から）



TP 4 推定塔跡東端堆積（南東から）



TP 5 調査状況（南から）

図版4 地形観察図作成寺院跡【岐阜圏域・西濃圏域 1】



岐阜市真長寺 墓域（東から）



岐阜市不動閣不動院 窟・湧水点（北から）



山県市弘誓寺旧境内 石積み（南から）



山県市甘南美寺旧境内 行者岩（南から）



大垣市天喜寺 石積み（南から）



大垣市観音寺 石積み（南から）



大垣市明星輪寺 石積み（南東から）



大垣市明星輪寺 巨岩（南から）

地形観察図作成寺院跡【西濃圏域 2】 図版 5



大垣市円興寺旧境内 塔跡礎石（北東から）



大垣市円興寺旧境内 講堂跡石垣（西から）



大垣市円興寺旧境内 集石（西から）



養老町柏尾廃寺跡 础石（南から）



養老町柏尾廃寺跡 塔跡基壇（北から）



養老町柏尾廃寺跡 窟（北から）



養老町柏尾廃寺跡 巨岩（東から）



養老町柏尾廃寺跡 墓域（東から）

図版6 地形観察図作成寺院跡【西濃圏域3】



養老町竜泉寺廃寺跡 硏石（南から）



養老町竜泉寺廃寺跡 石積み（東から）



養老町光堂寺廃寺跡 滝と巨岩（東から）



養老町光堂寺廃寺跡 巨岩（東から）



養老町光堂寺廃寺跡 硏石（東から）



養老町光堂寺廃寺跡 窟（東から）



垂井町觀音堂 硏石（南から）



垂井町南宮山頂経塚群（南から）



垂井町菩提寺 湧水点 (南から)



垂井町石越遺跡 石積み (東から)



垂井町石越遺跡 墓域 (東から)



関ヶ原町祖宝寺 石積み (南から)



関ヶ原町祖宝寺 墓域 (南から)



関ヶ原町密蔵院 石積み (北から)

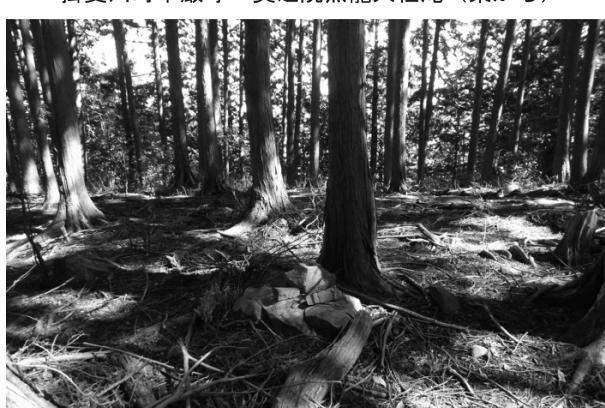
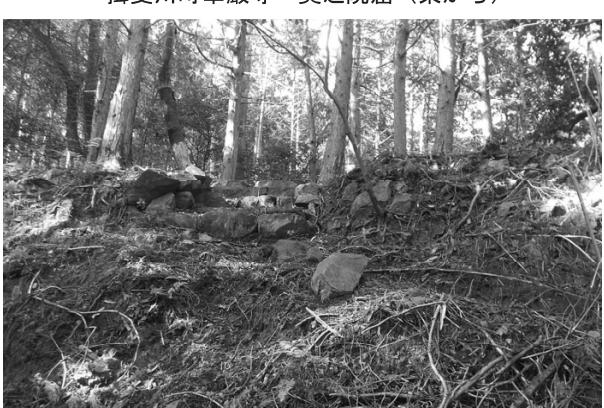
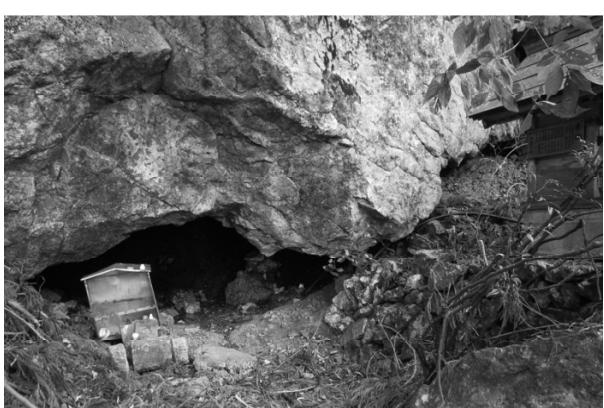


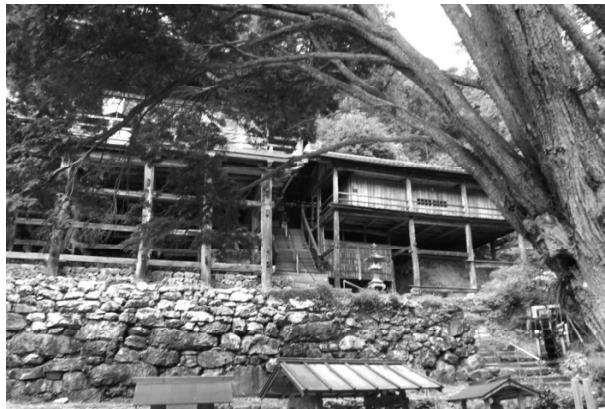
関ヶ原町照光寺 基壇 (南から)



関ヶ原町照光寺 石積み (東から)

図版8 地形観察図作成寺院跡【西濃圏域5】





関市日龍峯寺 石積み（東から）



関市日龍峯寺 龍神池（北東から）



関市（仮）香積寺廃寺跡 石段（東から）



美濃市普門寺 立石と鳥居（南から）



美濃市洲原白山權現 神岩（北から）



美濃市洲原白山權現 岩門（南から）



美濃市洲原白山權現 集石（東から）



美濃市高賀山滝の宮 権現の瀧（南から）

図版 10 地形観察図作成寺院跡【中濃圏域 2】



郡上市長瀧寺跡 護摩壇跡と金剛童子堂（東から）



郡上市長瀧寺跡 講堂跡礎石（南から）



郡上市長瀧寺跡 前谷床並社跡石積み（南から）



郡上市長瀧寺跡 薬師堂石積み（北東から）



郡上市長瀧寺跡 阿弥陀ヶ滝と窟（北から）



郡上市長瀧寺跡 阿弥陀ヶ滝と窟（東から）



郡上市長瀧寺跡 一ノ宿石積み（北から）



郡上市長瀧寺跡 阿弥陀ヶ滝と窟（東から）



郡上市奥の森白山社別当寺 石積み（南から）



郡上市奥の森白山社別当寺 滝（南から）



郡上市奥の森白山社別当寺 碇石（南から）



郡上市円周寺旧境内 石積み（南から）



郡上市巖屋本宮 石段（北から）



郡上市巖屋新宮寺 石段（北から）



白川町大山白山権現 石段（南から）



七宗町神渕神社奥の院 巨岩（南から）

図版 12 地形観察図作成寺院跡【中濃圏域 4・東農圏域 1】



東白川村幡龍寺 石積み（南から）



御嵩町愚溪寺旧境内 石積み（南から）



御嵩町愚溪寺旧境内 長屋門跡礎石（東から）



御嵩町愚溪寺旧境内 庭石（東から）



御嵩町極楽寺 石積みと池（南から）



多治見市永保寺 座禪岩（南西から）



多治見市永保寺 瑞靈岩（南から）



多治見市永保寺 土岐川対岸の瑞靈岩（西から）



瑞浪市清来寺 窟（南東から）



瑞浪市清来寺 窟（北から）



瑞浪市伝心宗寺跡 心字池（西から）



瑞浪市伝心宗寺跡 集石（西から）



瑞浪市櫻堂薬師 集石（南から）



瑞浪市櫻堂薬師（笠山遺跡）集石（南から）



恵那市松王寺跡 础石（南から）



恵那市白雲寺屋敷跡 巨岩（南から）

図版 14 地形観察図作成寺院跡【飛驒圏域】



高山市光寿庵跡 磓石（東から）



高山市光寿庵跡 推定塔跡基壇（南から）



高山市清峰寺跡 庭跡（南から）



高山市安寧寺跡 基壇跡（東から）



高山市安寧寺跡 磓石（南から）



下呂市阿弥陀寺旧境内 石積み（南西から）



下呂市大威德寺跡 鎮守跡礎石（北から）



下呂市大威德寺跡 本堂跡（南から）

横蔵寺所蔵



21

横蔵寺所蔵



20

横蔵寺所蔵



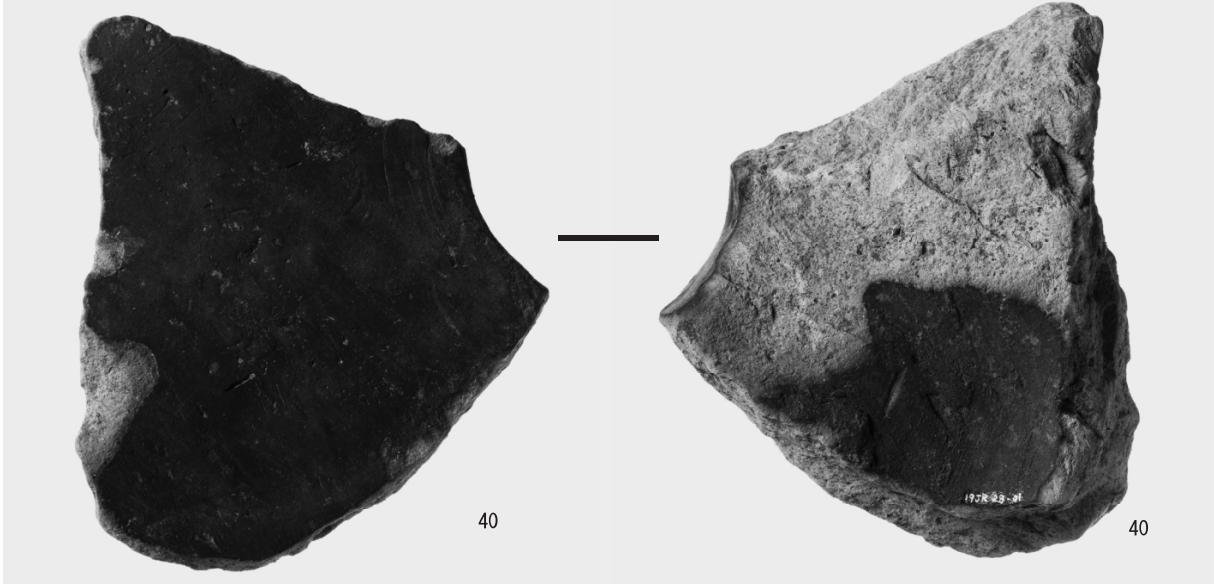
19

寿楽寺廃寺跡 TP4 出土



33

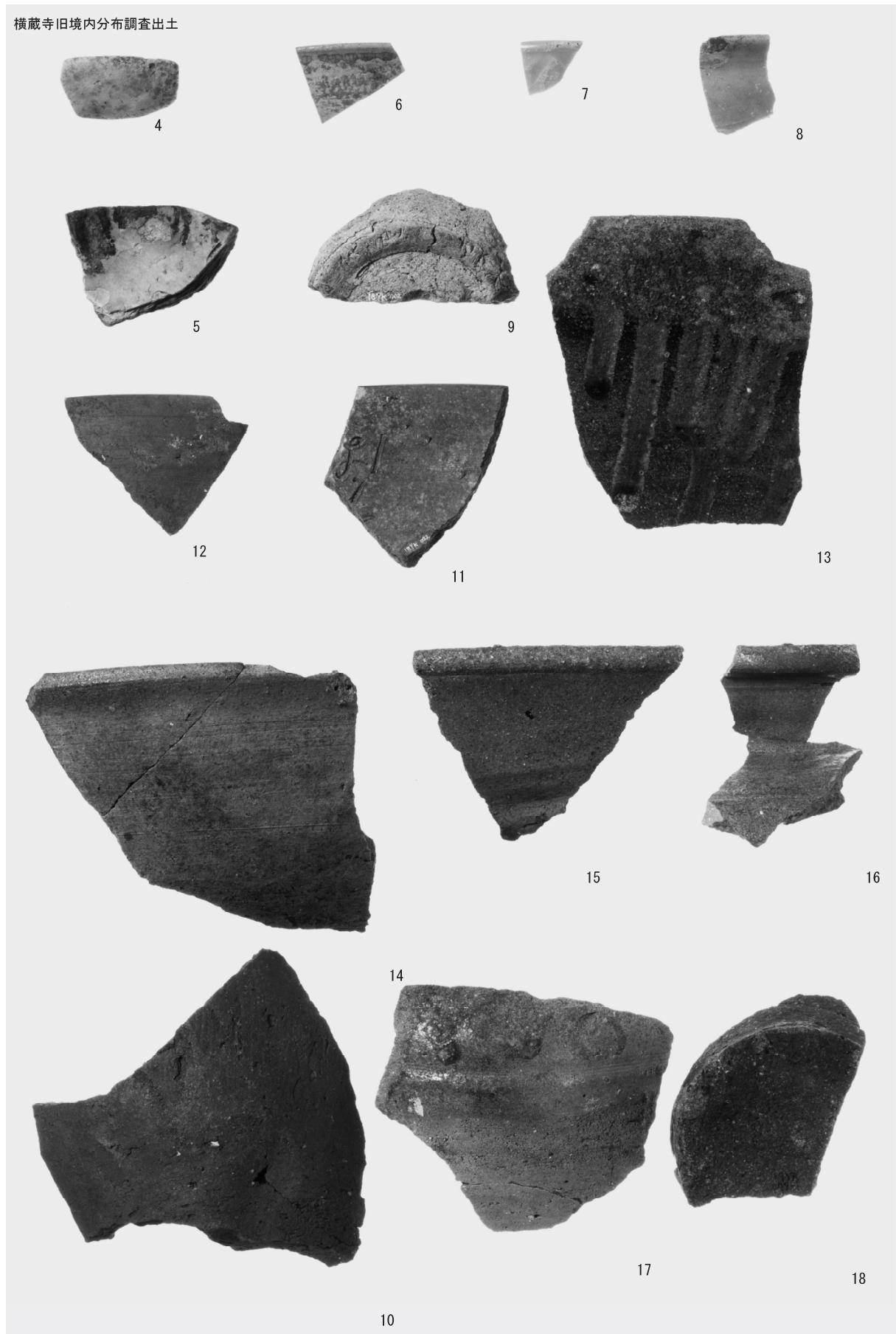
寿楽寺廃寺跡 TP5 出土



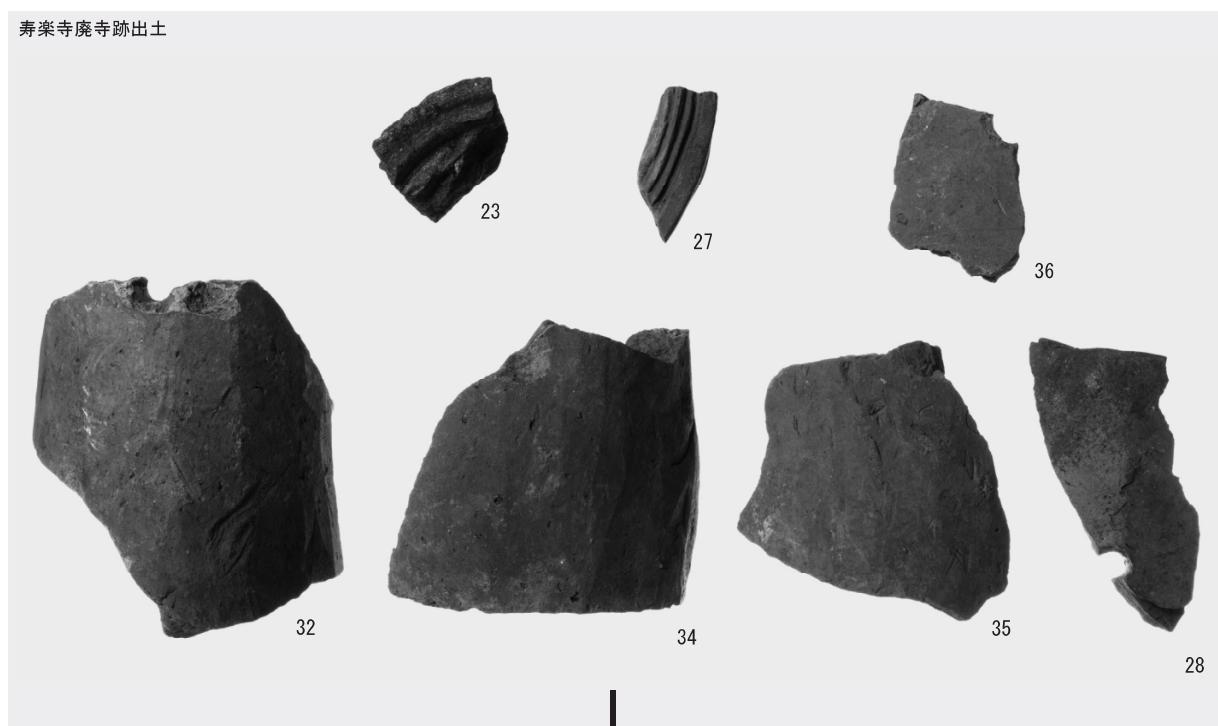
40

40

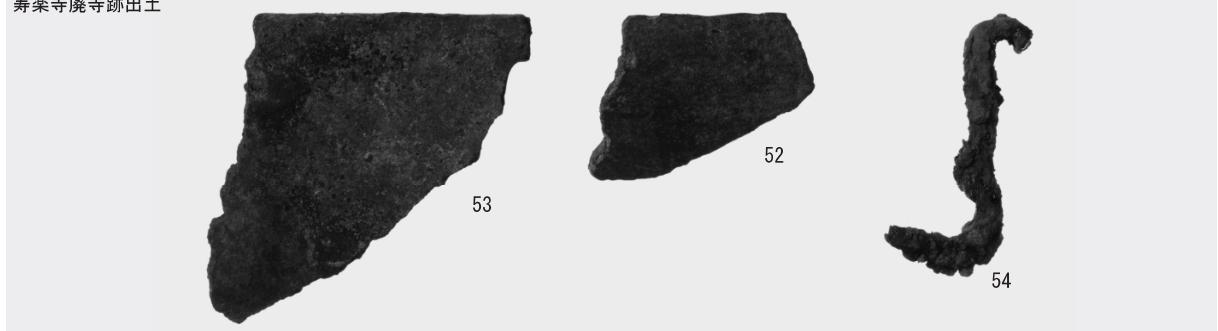
図版 16 遺物 (2)



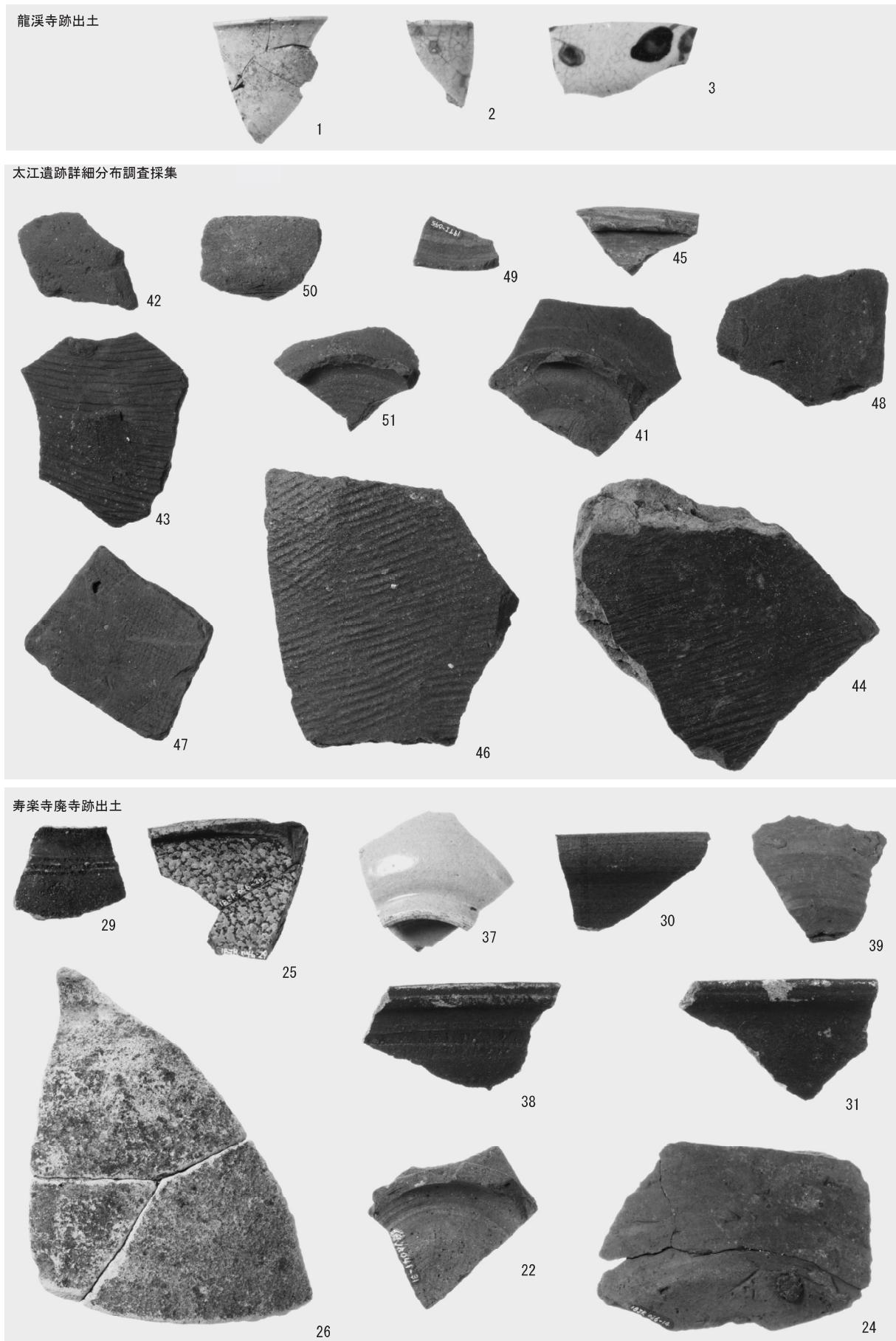
寿楽寺廃寺跡出土



寿楽寺廃寺跡出土



図版 18 遺物（4）



岐阜県文化財保護センター調査報告書 第162集
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書
(第6分冊)

2023年3月17日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
印 刷 株式会社もとすいんさつ